

特別史跡 無量光院跡発掘調査報告書XVI

—— 第40次調査 ——

2020

令和2年3月

平泉町教育委員会

特別
史跡 無量光院跡発掘調査報告書 XVI

—— 第40次調査 ——

2020

令和2年3月

平泉町教育委員会



全景（東から）



調査区全景（東から）



石敷（南から）



東側土塁断面（北から）

序

町内には、特別史跡中尊寺境内・毛越寺境内附鎮守社跡・無量光院跡、史跡柳之御所・平泉遺跡群、達谷窟、金鶏山、特別名勝毛越寺庭園、名勝旧観自在王院庭園・おくのほそ道の風景地など奥州藤原氏に関連する数多くの国指定文化財が狭い町域に分布しています。

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』文治五年(1189)九月十七日条の「寺塔已下注文」に、無量光院跡は奥州藤原氏三代秀衡が宇治平等院を模して建立したと併せ、藤原氏の政庁「平泉館」との位置関係が記されています。

無量光院跡は、大正11年に国の史跡に指定されました。昭和27年には、文化財保護委員会(現文化庁)が発掘調査を実施し、『吾妻鏡』の記載が裏付けられるとともに宇治平等院との類似性・相違点が明らかになりました。その調査成果から、昭和30年には特別史跡に指定されています。

当町では、遺跡の重要性に鑑み平成5年から地元の方々のご理解とご協力を得ながら公有化を進め、史跡の恒久的な保存措置を図っております。平成14年度からは史跡整備を視野に入れ、整備に資する資料収集を目的とした本格的な内容確認調査を継続的に実施しております。

本報告書は平成30年度に実施しました第40次調査成果を収録したものです。本次調査では、無量光院造営時の整地層下から、12世紀の石敷と築地塀が確認されました。この石敷と築地塀は一連のもので、無量光院跡以前にあった重要施設を囲む塀とその入口の通路と考えられます。施設の性格は今後の課題ではありますが、平泉の都市変遷を考える上で貴重な資料を得ることができました。

特別史跡無量光院跡保存修理事業につきましては、地域住民の方々をはじめ、ご指導・ご助言をいただきました文化庁・岩手県教育委員会・平泉遺跡群調査整備指導委員会・宗教法人毛越寺に対し深く感謝申し上げます。

令和2年3月

平泉町教育委員会

教育長 岩 淵 実

例 言

- 1 本書は平成30年度の国庫補助事業により実施した特別史跡無量光院跡第40次調査の報告である。
- 2 野外調査期間は平成30年7月9日から平成30年10月26日までである。室内整理期間は平成31年3月29日までである。
- 3 調査地点は岩手県西磐井郡平泉町平泉字花立地内である。調査面積は約200m²である。
- 4 発掘調査の主体は平泉町教育委員会である。

平泉町教育委員会

教 育 長 岩 淵 実

平泉文化遺産センター

所 長 及 川 司

所 長 補 佐 高 橋 国 博 補助員（臨時） 千 葉 京 子

主任主査文化財調査員 菅 原 計 二 補助員（臨時） 佐 藤 昌 弘

主任主査文化財調査員 鈴 木 江 利 子 補助員（臨時） 熊 谷 明 美

主 査 文 化 財 調 査 員 島 原 弘 征 補助員（臨時） 菊 地 道 子

文 化 財 調 査 員 鈴 木 博 之

主 事 那 須 駿 也

- 5 発掘調査・室内整理は島原・鈴木江利子が担当し、佐藤・菊地の協力を得た。事務は高橋が担当した。
- 6 本書の執筆は、島原・鈴木江利子が担当した。編集は島原が行った。
- 7 遺構の名称については、本書内では次のように使用する。

本堂跡のある島を「中島」、本堂跡の東にある中島を「東島」、本堂跡北側で検出した小島を「北小島」とする。

- 8 調査の基準点は平成15年に無量光院内に設置した基準点（平面直角座標X系に準拠）をもとに調査員が打設した。
- 9 土層観察の土色は『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄2001）によった。
- 10 調査成果の一部については、現地説明会（平成30年9月29日開催）、平泉遺跡群調査整備指導委員会、平成30年度平泉文化フォーラム、平成30年度平泉町内遺跡調査報告会等で公表している。上記と内容と異なる場合は本書が優先する。
- 11 発掘調査及び室内整理にあたっては、次の方々ならびに機関からご指導とご協力を賜った（順不同・敬称略）

宗教法人毛越寺、文化庁、岩手県教育委員会、平泉遺跡群調査整備指導委員会、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

- 12 出土遺物及び写真・図面等の調査に関わる資料は平泉町教育委員会が保管している。

- 13 発掘調査参加者（順不同・敬称略）

阿部俊春、石川巖覺、及川勝、小野寺富子、小野寺友子、小野寺美恵子、春日谷初男、小岩佳彥、小松代方代、佐々木利雄、佐々木直久、佐藤潔、佐藤彦悦、佐藤参、菅原 聡、菅原まつ子、菅原有利、鈴木健一、高橋堅志、田村功、千葉勝也、千葉セツ子、千葉哲夫、千葉ナカ子、千葉光春、千葉正行、千葉みよ子、千葉義男、藤原榮治、丸山聡子、真山宗雄、吉田琴子

目 次

I 位置と環境	1	1 検出遺構	6
II 調査の概要	6	2 調査概要	6
1 調査目的	6	3 出土遺物	13
2 調査方法	6	IV まとめ	34
III 調査の成果	6		

表 目 次

第1表 無量光院跡調査履歴	3	第7表 羽口観察表	33
第2表 かわらけ観察表	31	第8表 土壁観察表	33
第3表 中国産磁器観察表	31	第9表 木製品観察表	33
第4表 国産陶器観察表	31	第10表 種子観察表	34
第5表 須恵器観察表	32	第11表 鉄滓観察表	34
第6表 瓦観察表	32	第12表 銭貨観察表	34

図 版

第1図 平泉町の位置	1	第11図 P1～6・SK1・2断面図	22
第2図 位置図	1	第12図 SD3・4・6断面図	23
第3図 無量光院跡第40次遺構配置図	7・8	第13図 東側土塁断面図	24
第4図 33・40次遺構配置図	14	第14図 出土遺物1(かわらけ)	25
第5図 調査区全体図	15・16	第15図 出土遺物2(国産陶器)	26
第6図 調査区西側断面図	17	第16図 出土遺物3(瓦1)	27
第7図 SD1・2断面図	18	第17図 出土遺物4(瓦2)	28
第8図 築地堀断面図	19	第18図 出土遺物5(羽口)	29
第9図 東側石敷平面	20	第19図 出土遺物6(木製品他)	30
第10図 東側石敷断面	21	第20図 33・40次同範復元文様	31

写 真 図 版

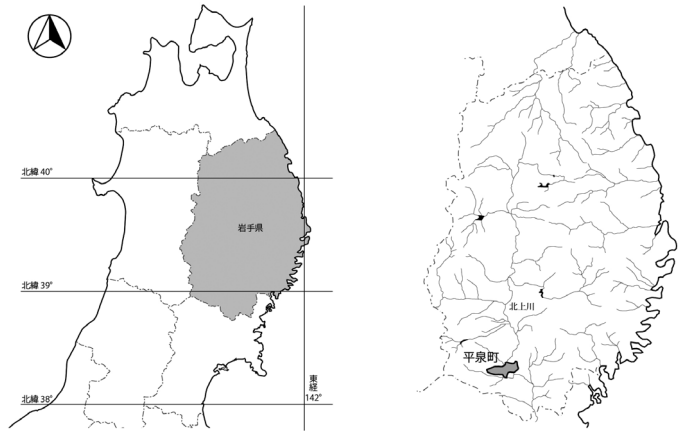
写真図版1 石敷・柱穴(1)	36	写真図版6 溝・土坑	41
写真図版2 石敷・柱穴(2)	37	写真図版7 出土遺物(1)	42
写真図版3 築地堀	38	写真図版8 出土遺物(2)	43
写真図版4 築地堀・土塁	39	写真図版9 出土遺物(3)	44
写真図版5 溝	40		

I 位置と環境

1 無量光院跡の位置

平泉町は岩手県南部、北上川中流域に位置する人口約7,500人、面積約64平方kmの小さな町である。南は一関市、北は奥州市に接している。12世紀には奥州藤原氏の拠点として栄え、中尊寺や毛越寺庭園を始めとする数々の文化財が残り、往時をしのばせている。

無量光院跡は北上川右岸の町の中心域に所在する。遺跡の中心は、JR東北本線平泉駅から北西約500m、周辺には水田や住宅があり、鉄道や県道が横断している。



第1図 平泉町の位置

2 無量光院跡の現状

平泉は平安時代末の約100年間、東北地方を勢力下に置いた奥州藤原氏の拠点であり、当時の痕跡を多く残している。その一つである無量光院跡は、奥州藤原氏三代目の秀衡が建立した寺院跡である。

無量光院跡は、南側を除いた三方を土塁で囲まれ、その内側には梵字が池と呼ばれる池跡と、大中小三つの島が（中島・東島・北小島）設けられている。また、西側は土塁の外側に沿って堀が設けられており、現在でもその痕跡を見ることができる。境内の規模は、鉄道と県道によって3分割されている関係で分かりにくいですが、南北約320m、東西約240mを測る。

昭和27年に文化財保護委員会（現在の文化庁）が行った発掘調査によって、中島には阿弥陀堂の跡



第2図 位置図

が、東島から3棟の建物跡が確認された(1次調査)。建物は失われたものの、島の礎石は当時の建物の位置や規模を示し、周辺の休耕田部分は「梵字が池」と呼ばれる池の跡として平坦地を形成し、当時の面影を伝えていた。地形から推定される池の広さは東西約140mを測る。しかし、一見すると旧耕田の中に島状の高まりが大小二つ、東西に並んだ状況でしかなく、説明がないと来訪者にはわかりにくい状態であった。

無量光院の中心である中島と東島は、毛越寺の所有地である。池の跡や周辺は寺領ではなく、住宅や水田として使用されていたことから、管理団体である平泉町は鉄道と県道に挟まれた中央部分の住宅地や水田を公有化し、平成24年度からは池跡部分を中心に整備工事を開始した。平成26年度には東島及びその周辺、同27年度には中島、28年度には北小島の整備が行われ、以前に比べて東島・北小島が視認しやすくなってきており、様相は変化してきている。

参考文献

- 文化財保護委員会1954 無量光院跡 埋蔵文化財発掘調査報告第三
- 平泉町教育委員会1993 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第34集(3次)
- 平泉町教育委員会1995 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第47集(4次)
- 平泉町教育委員会1999 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第73集(5~7次)
- 平泉町教育委員会2000 平泉遺跡群発掘調査略報 岩手県平泉町文化財調査報告書第73集(8~10次)
- 平泉町教育委員会2003 特別史跡無量光院跡内容確認調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第83集(12次)
- 平泉町教育委員会2004 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅰ 岩手県平泉町文化財調査報告書第87集(13次)
- 平泉町教育委員会2004 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第85集(14次)
- 平泉町教育委員会2005 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅱ 岩手県平泉町文化財調査報告書第91集(15次)
- 平泉町教育委員会2005 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第92集(16次)
- 平泉町教育委員会2006 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅲ 岩手県平泉町文化財調査報告書第99集(17次)
- 平泉町教育委員会2008 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅳ 岩手県平泉町文化財調査報告書第107集(18次)
- 平泉町教育委員会2009 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅴ 岩手県平泉町文化財調査報告書第109集(19次)
- 平泉町教育委員会2010 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅵ 岩手県平泉町文化財調査報告書第113集(20次)
- 平泉町教育委員会2011 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第116集(21次)
- 平泉町教育委員会2011 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅶ 岩手県平泉町文化財調査報告書第115集(22次)
- 平泉町教育委員会2012 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅷ 岩手県平泉町文化財調査報告書第117集(23次)
- 平泉町教育委員会2013 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅸ 岩手県平泉町文化財調査報告書第119集(24次)
- 平泉町教育委員会2014 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅹ 岩手県平泉町文化財調査報告書第121集(25次)
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2015 無量光院跡第26次・花立Ⅰ遺跡第30次・花立Ⅱ遺跡第24次発掘調査報告書 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第631集
- 平泉町教育委員会2015 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第124集(27・29次)
- 平泉町教育委員会2015 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅠ 岩手県平泉町文化財調査報告書第123集(28次)
- 平泉町教育委員会2016 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅡ 岩手県平泉町文化財調査報告書第125集(30次)
- 平泉町教育委員会2017 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅢ 岩手県平泉町文化財調査報告書第127集(33次)
- 平泉町教育委員会2018 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅣ 岩手県平泉町文化財調査報告書第129集(34次)
- 平泉町教育委員会2018 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第130集(35次)
- 平泉町教育委員会2019 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅤ 岩手県平泉町文化財調査報告書第131集(36次)
- 平泉町教育委員会2019 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第132集(37・38次)
- 平泉町教育委員会2020 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第134集(39・41次)

第1表 無量光院跡調査履歴

次数	主 体	原 因	史跡指定地内	期 間	面積㎡	内 容
1	文化財保護委員会	内容確認	○	S270804 ～0903		・『吾妻鏡』により、宇治平等院を模して建立されたとの記述を裏付けた調査。 ・平等院との類似性、相違点が明確化。 ・本堂と翼廊の規模が明らかとなる。臨池式翼廊付阿弥陀堂、本堂の規模が平等院と類似。 ・本堂の東側の島（東島）で3棟の礎石建物を確認。
2	岩手県教育委員会	住宅増築	○			・現状変更（建物建替）に伴うトレンチ調査。 ・東岸と地業層を検出。
3	平泉町教育委員会	住宅増築	○	H040924 ～0930	6	・園池としての明確な遺構は検出されず。 ・地山傾斜面と灰色粘土質層は園池の可能性を残している。
4	平泉町教育委員会	駐車場造成	○	H061205 ～1226	55	・西側土塁と北側土塁が繋がっていた可能性を指摘。 ・北側土塁の北斜面の平場から、波板状凸凹を伴う12世紀後半の道路跡を検出。 ・井戸状遺構から多数のちゅう木が出土。 ・土塁版築層の構築年代を12世紀第3四半期後半から第4四半期前半と推定。
5	平泉町教育委員会	住宅改築		H100629 ～0729	190	・東側土塁版築層の基底部と思われる整地地業層を確認。時期は12世紀第3四半期後半。 ・猫間が淵跡の張り出し地形に向かう道路跡を確認。
6	平泉町教育委員会	車庫新築		H100817 ～0910	47	・堀跡1条、溝1条、土坑1基、柱穴58個を検出。
7	平泉町教育委員会	住宅改築		H101009 ～1125	300	・掘立柱建物1棟、柱穴列2条、特殊遺構2基、溝11条、土坑6基を検出。 ・特殊遺構とされた1基は、周溝状の溝で半円に区画された遺構。内部にこの遺構に付随すると思われる5個の柱穴が検出されており、宝樹に相当する遺構と考えられている。 ・もう1基の特殊遺構は、方形周溝に囲まれ、内部に壁柱穴を伴う方形の堅穴建物である。祭祀に関連した遺構と推定されている。
8	平泉町教育委員会	住宅新築	○	H110402 ～0707	610	・北側土塁に相当する部分で、傾斜面を平坦化する整地層を確認。地業は深いところで約3mに及ぶ。 ・北側土塁北の犬走り状の部分から、幅約1.5mの石敷道路遺構を検出。緑石は頭大、内部は拳大。その上部を細礫で塞ぐ工法。
9	平泉町教育委員会	擁壁建設		H110715 ～0831	154	・7次調査の南側隣接地。同調査で検出された堅穴建物の南半を検出し、全容が明らかとなる。 ・他に掘立柱建物1棟、溝2条、土坑11基を検出。 ・堅穴建物は3.35×3.35mの略方形、深さ0.35mを測る。内部に2×3間の壁柱穴を確認。また、堅穴建物は6.3×7.0mの隅丸方形の周溝に囲まれている。周溝の規模は幅0.4m、深さ0.5mを測る。
10	平泉町教育委員会	物置新築		H110901 ～1018	220	・土塁より古い溝1条と土坑2基を検出。 ・土塁の断面観察の結果、版築状に地山粘土を積み上げた状況を確認。 ・土塁下の旧表土層からロクロかわらけの一括廃棄遺構を検出。
11	平泉町教育委員会	駐車場造成		H120605 ～0825	350	・西側土塁の基底部を確認。 ・柱穴を検出。
12	平泉町教育委員会	内容確認	○	H141102 ～150328	932	・池跡に非常に浅く、遺物包含層がないことを確認。 ・池底を平坦にするための整地層を一部確認。 ・池底から遺構は確認されない。 ・東島は地山を掘り残したものであること、景石は根石等が確認されていないことから、直に設置されていた州浜の葺石と思われることを確認。
13	平泉町教育委員会	内容確認	○	H150513 ～1219	2900	・東島の東の調査。 ・表土から20cm下で地山（池底）を検出。遺物包含層は認められない。 ・ただし、北側に向かうにつれて若干深みを増す傾向が認められ、周辺に池尻の存在が予想されている。 ・中島（本堂跡）の東側（同正面）に南北方向に並列する2列の柱列（4個×2列）を検出するも、橋脚に関連するものではないと判断されている。 ・中島の北側から橋脚の抜き取り痕と思われる柱穴を検出。 ・中島の北西側で汀線の追跡を行う。周辺では礎は検出されていない。
14	平泉町教育委員会	住宅増築		H150723 ～0731	32	・無量光院跡の南辺に位置する。南側土塁、堀跡の存在が予想される地域である。狭小な調査区であったが、土塁・堀跡は検出されず。
15	平泉町教育委員会	内容確認	○	H160910 ～1203	549	・13次に続き池尻の追跡調査を行うも、池尻は確認されず。 ・園池北西地域から、堅穴建物、溝、土坑、柱穴を検出。柱穴は建物を構成する柱穴の一部と推定される。柱穴どうしの重複はない。 ・周辺に整地層を確認。西側土塁の基底部と推定される。 ・中島（本堂）を中心に南北対称の位置から、第7次で確認された堅穴建物と類似する遺構を確認。ただし、周溝は検出されていない。 ・中島の北側、北翼廊西側礎石列の延長部で北側に延びる橋脚の柱穴を検出（南北柱間2.4m、東西柱間3.0m）。
16	平泉町教育委員会	物置建築		H161025 ～1124	36	・12世紀後半と推定される地業層を確認。 ・12世紀後半期以降と推定される建物を構成する柱穴の一部、溝、土坑を検出。 ・12世紀後半の瓦、かわらけ、陶器片、羽口が出土。 ・17世紀以降の溝2条、肥前産磁器が出土。

次数	主 体	原 因	史跡指定地内	期 間	面積㎡	内 容
17	平泉町教育委員会	内容確認	○	H170613 ～1102	270	・本堂北側翼廊の延長線上に橋脚跡を検出（1×4間）。 ・橋脚跡の北側に小島（仮称：北小島）を検出。平等院との類似性がさらに補足される。 ・拳大の円礫が池底付近の埋土から多数出土。
18	平泉町教育委員会	内容確認	○	H180605 ～1204	800	・本堂西側から北側にかけての池の範囲が明らかになった。 ・池北岸と北小島とをつなぐように、土手状の高まりが設けられていることを確認。平等院との類似性がさらに補足された。 ・導水の濾過装置と推定される落ち込み遺構を検出した。 ・土塁状の高まりの下に板が埋設されていることを確認した。導水に関係する木樋の可能性も想定される。 ・池底、池岸に石は認められない。
19	平泉町教育委員会	内容確認	○	H190615 ～1110	700	・本堂北側の池の範囲が明らかになり、池の範囲が一部県道北側にまで及び可能性が出てきた。 ・導水の可能性の高い溝跡を確認。 ・18次調査で確認した、板の追跡を行ったが、板の下部に掘り込み等の痕跡は認められなかった。 ・県道際で道路側溝と思われる近世の溝跡1条を確認。奥州道中に関連する溝と思われる。
20	平泉町教育委員会	内容確認	○	H200602 ～1031	700	・池跡の北東から東の汀線を検出し、池跡は現地地形と異なり北に張り出して県道北側まで広がることを確認された。 ・県道より北側では溝や柱穴などの遺構を検出した。柱穴の中には整地以前のものもあり、無量光院以前から、何らかの土地利用されていたことが確認された。
21	平泉町教育委員会	住宅新築		H210512 ～0601	150	・周溝を伴う竪穴建物1棟、溝3条、柱穴30個を検出。 ・竪穴建物は、西側が調査区外のため全容は不明だが、南北3.35m、東西1.42mを測り、壁柱穴を伴っている。この竪穴建物の外側を幅31～86cm、深さ6～12cmを測る溝が円形状に巡っている。この竪穴建物は7次調査のものに類似しているが、周溝が円形状を呈している点が若干異なる。 ・周溝に区画された範囲は南北で約8.14mを測る。なお、東西方向は調査区外を含むため不明だが、確認した範囲で約4mを測る。
22	平泉町教育委員会	内容確認	○	H210615 ～1221	700	・池東側と南側の岸を確認した。 ・今年度までの調査で東西の岸を確認できたことから、無量光院跡の池の大きさは、東西約140mあることが確認された。また、池岸には石が葺かれていた様子はなく、池は浅いと思われる。 ・橋の痕跡は検出できなかったが、池底から用途・性格不明の掘り込みを検出した。 ・この掘り込みは幅2.8～3.5m、深さ20～30cmあり、池底を整える際に埋め戻されたものと考えられるが、性格は不明である。
23	平泉町教育委員会	内容確認	○	H220621 ～1221	500	・本堂基壇周辺を巡る板石及び正面に敷かれた塙の広がりを確認し、再測量を行った。 ・ただし、北翼廊の一部で検出された板石を覆う基壇造成土の検証や塙の広がり範囲確認及び東端の石列との関係の確認などが課題として残されている。 ・中島東端から舞台と考えられる柱跡が検出された。
24	平泉町教育委員会	内容確認	○	H230704 ～1228	235	・本堂基壇構造をおおよそ確認することができた。また、基壇表面には川原石を洲浜状に葺いていた。 ・「塙」の広がりはいくつかとも東西方向2.7m、南北方向24m程あることを確認した。
25	平泉町教育委員会	内容確認	○	H240720 ～1228	290	・昭和27年の一次調査で確認された東島に所在する礎石建物3棟の北半部を中心に再調査を行った。特に東方建物は、複数の建物に分かれる可能性がある。また、礎石建物より古い掘立柱建物を検出したが、礎石及び根石の下に広がること及び南側調査区外に広がっていることから規模は不明である。 ・中島北側の池岸から、岬及び入江を確認した。 ・東島の岸は後世の削平を受けており、残存状況が不良であること、大型の景石の一部は現位置を保っていないことが確認された。
26	(公財)岩手県文化 振興事業団埋蔵文 化センター	内容確認	○	H240601 ～1205	1390	・電線共同溝本線部分の内容確認調査。無量光院跡の北西端から東端にかけて細長く調査を行い、池跡とその排水路を検出し、西側土塁下に整地層が広がることを確認した。 ・池跡北西側の護岸及び堆積土の残存状況は良好で、池北西側の様相を把握することができた。
27	平泉町教育委員会	物置建替		H250520 ～0605	41	・無量光院跡南側の史跡外の調査。12世紀の溝跡2条と塙跡1列を検出したが、無量光院跡の軸線とは異なり、無量光院跡に関連した遺構かは不明。
28	平泉町教育委員会	内容確認	○	H250617 ～H260314	300	・昭和27年の一次調査で確認された東島に所在する礎石建物4棟の南半部を中心に再調査を行った。特に東方建物は、複数の建物に分かれる可能性がある。 ・中島北側の池岸から、岬及び入江を検出し、規模・形状を確認した。
29	平泉町教育委員会	内容確認		H260317 ～0331	54	・西側土塁南側の史跡外の調査。同土塁の斜面部分を検出。

次数	主 体	原 因	史跡指定地内	期 間	面積㎡	内 容
30	平泉町教育委員会	内容確認	○	H260623 ～1226	500	・東門調査区では、東門は検出されなかったが、表土下5cmで12世紀の整地層を検出し、無量光院造営時に大規模に造営されていたことが確認された。整地層の下から無量光院跡造営以前と考えられる幅7m、深さ1mの大溝を検出された。 ・北小島の大きさは東西15m、南北10.5m程あること、高さが少なくとも30cmあることが確認された。
31	平泉町教育委員会	物置建替	○	H260623 ～0718	51	・無量光院跡の池（梵字が池）の北端部分の調査。 ・池底及び護岸の一部が検出された。護岸のラインは調査区北側に隣接する用水路（青線）と並行関係にあり、当時の地形が現在の境界に影響を与えている可能性を指摘。
32	平泉町教育委員会	内容確認	○	H261109 ～1212	27	・電線共同溝本線から延びる引き込み線部分の内容確認調査。 ・大半が近代以降の道路側溝によって12世紀の遺構面が失われていたことが確認された。
33	平泉町教育委員会	内容確認	○	H270611 ～1116	500	・中島の補足調査と東側土塁及びその東部の調査 ・中島の調査では本堂基壇が川原石に被覆されている独特の基壇意匠であることを確認した。 ・東側土塁は、無量光院造営時に盛られていることを確認した。 ・東側土塁の東部では、無量光院跡段階の柱穴と汚物廃棄穴を確認した。また、その下層から無量光院以前の築地堀を検出した。
34	平泉町教育委員会	内容確認	○	H280811 ～1130	200	・無量光院跡北東端の調査 ・北東側を区画する堀跡2条を確認。堀跡は12世紀後半以降に同一箇所短期間に作り替えが行われていたことを確認。無量光院跡北隣に位置する柳之御所遺跡の堀跡も外側から内側への移行及び複数回の浚渫が認められ、同遺跡堀との関連性が伺える。
35	平泉町教育委員会	住宅新築		H280523 ～0729	147	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。12世紀の東西軸の大溝跡を検出したが、無量光院跡に伴うものかは不明。
36	平泉町教育委員会	内容確認	○	H290801 ～1117	160	・無量光院跡北東端の調査 ・北東側を区画する堀跡2条を確認。堀跡は12世紀後半以降に同一箇所短期間に作り替えが行われていたことを確認。無量光院跡北隣に位置する柳之御所遺跡の堀跡も外側から内側への移行及び複数回の浚渫が認められ、同遺跡堀との関連性が伺える。
37	平泉町教育委員会	住宅新築		H290531 ～0801	110	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。土坑、溝、焼土遺構、柱穴を検出。無量光院跡造営時の整地層下から12世紀前半のかわらけとともに擦文土器が出土。
38	平泉町教育委員会	住宅新築		H290802 ～0824	75	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。土坑、溝、柱穴を検出。
39	平泉町教育委員会	住宅新築		H300405 ～0507	53	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。木枠を持つ井戸状遺構1基を検出。
40	平泉町教育委員会	内容確認	○	H300709 ～1026	200	・無量光院跡東側の調査。無量光院跡以前の石敷と築地堀を検出。
41	平泉町教育委員会	盛土		H301026 ～1129	58	・無量光院跡南西端の史跡外の調査。溝跡3条を検出。うち2条の帰属時期は12世紀。
42	平泉町教育委員会	電線共同溝	○	H310306 ～0326	20	・無量光院跡を北西－南東方向に縦断する県道脇の調査。溝1条、整地層、柱穴1個を検出。
43	平泉町教育委員会	造成		H310415 ～0423	85	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。土坑1基と柱穴を検出。
44	平泉町教育委員会	住宅新築		H310409 ～R010523	90	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。12世紀の整地層とその上面から土坑・柱穴を検出。

Ⅱ 調査の概要

1 調査目的

平成14年から開始した復元整備に伴う内容確認調査で、今年度は17年目にあたる。無量光院跡はこれまで、文化財保護委員会・岩手県教育委員会・平泉町教育委員会によって今回の調査を含め40回の調査が行われてきている。調査履歴は第1表に記したので参照願いたい。40次調査は、無量光院跡東側土塁及び土塁東側の平坦面を対象に調査を行った。

2 調査方法

グリッド 遺構実測や遺物出土地点の記録等の実測作業の基準として、無量光院跡全域に平面直角座標X系（測地成果2000）を元に20m四方のグリッドを設定し、それに基づき基準点を打設した。

なお、平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震において、調査区周辺では西北西方向に約20cm、平成23年3月11日に発生した東北太平洋沖地震によって、南南東へ約2.7mずれていることが確認された。よって、同地震以降に新規設置した基準点に関しては、変動前の数値（測地成果2000）に変換した測量成果を使用し、既存の測量成果との整合性をつけた。

粗掘・検出 遺構検出面まではスコップもしくは移植ベラで表土層を剥ぎ、遺構や層位の確認を進め、鋤簾等で遺構検出作業を行った。

精査 基本的には検出に留めた。ただし、遺構の年代・層序等を確認するため整地層・溝は部分的にサブトレンチを入れ、土坑・柱穴は半裁まで調査を行った。なお、今回の調査区は近現代の攪乱が著しかったことから、整地層及び築地塀の調査においては、可能な限り攪乱を利用した断面観察を行うよう心掛けた。

記録 遺構の実測は、平板測量もしくはグリッドを1×1mに分割したメッシュを用いて測量した。遺構写真は35mm版カメラとデジタルカメラ（ニコンD90）をメインカメラとし、遺構及び調査全景写真時には、メインカメラに加えて6×7版カメラ（リバーサル）で撮影を行った。

埋め戻し 山砂で遺構面を覆い、その上に調査で掘削した土を埋めた。

普及活動 調査地点は無量光院跡を北西－南東方向に縦断する県道沿いにあったことから、現場は随時公開し調査に支障がない範疇で説明等を行った。調査終盤の平成30年9月29日に現地説明会を開催し200人の参加を得た。調査成果は、「広報ひらいずみ」及び平成30年度平泉文化フォーラム、平成30年度町内遺跡発掘調査報告会等で公表している。

Ⅲ 調査の成果

1 検出遺構

検出遺構は整地層、築地塀、石敷、土坑2基、溝跡6条、柱穴19個である。

2 調査概要

無量光院跡東側土塁が途切れ無量光院跡の正面にあたる部分では、池北側を通る県道が南北方向から北西－南東方向に向きを変える地点でもある。県道が方向を変えた理由として、かつてこの付近には無量光院の東門があり、土塁が途切れていた部分を利用し後世に道路を通したため向きが変わったと言われている。実際この近くには「角（かど）」という屋号をもつお宅がある。



第3図 無量光院跡第40次遺構配置図

0 1:800 40m

東門の有無を確認するため、30次調査においてこの一角を調査している。この調査では12世紀の大規模な整地層とその直下に幅7m、深さ1mの大溝を確認しており、無量光院造営段階において、造成が施されていること、整地層下にそれ以前の遺構が内包されていることが確認できた。ただし、現代の攪乱が著しく東門の有無を確認することができなかった。

今回の調査では、30次調査段階で調査できなかった東土塁先端部東側を二年計画で調査し、東門の有無とその周辺の遺構分布の確認を目的としている。今回は当該予定地の南半部、無量光院以前と考えられる南北方向の築地塀が確認された33次調査区の北側隣接地を対象に東西方向20m、南北方向15mの調査区を設定した。

調査区の西端は無量光院跡の東側土塁東側裾とおおよそ重なっている。ただし、この付近は、かつて住宅地で土塁を削り平坦地を広げた影響で、裾は道路と同じ南北方向の直線を呈し、法面はほぼ垂直に切られていた。また、昭和40年代に公有化するまであった店舗兼住宅を建設する際に石敷が見つかったとする話もある場所であった。

(1) 土坑

2基検出した。個々の属性は下記一覧表を参照願いたい。ここでは傾向について触れる。

遺構名	平面形	規模(cm)	断面形	深さ(cm)	検出面標高(m)	底面標高(m)	遺物
40SK1	楕円形	85	逆台形	37	27.07	26.70	かわらけ片・鉄滓・土壁片
40SK2	円形	144×104	深鍋形	100以上	26.60	25.60	不明木片

1号土坑(40SK1)(第5・11図、写真図版6)

〈位置・検出状況〉調査区北西側で検出した。〈新旧関係〉上位面が攪乱によって失われていることから、他遺構との関係は不明だが、位置的に無量光院以前の可能性がある。〈埋土〉オリーブ灰粘土を主体とした人為堆積を呈する。〈出土遺物〉かわらけ片が1点出土した。〈所属時期〉出土遺物から12世紀と判断した。

2号土坑(40SK2)(第5・11図、写真図版6)

〈位置・検出状況〉調査区東側で検出した。近世側溝の可能性のある6号溝より新しい遺構であることから、調査は底面まで完掘せず、深さ1.0mの調査に留めた。

〈埋土〉灰黄色粘土を主体とした人為堆積を呈する。〈出土遺物〉ロクロかわらけの底部片と小破片、鉄滓・土壁片が各1点づつ、不明木片が1点出土した。

(2) 溝

6条検出した。属性は下記一覧表を参照していただき、本文ではそれ以外の部分について触れる。

遺構名	全長(m)	幅(m)	断面形	深さ(cm)	方位	検出面標高(m)	底面標高(m)
40SD1	2.7	0.98~1.09	逆台形	35	N-10° -E	26.96	26.60~26.62
40SD2	11.8	0.81~1.85	逆台形~U字	72~94	N-17° -E	26.66~27.00	25.94~26.37
40SD3	6.60	1.05~1.40	椀型	41~60	N-63° -E	26.85~27.13	26.30~26.47
40SD4	3.88	0.93	逆かまぼこ型	32	N-72° -E	27.06~27.10	26.74
40SD5	3.0	(2.35)	椀~皿状	62~80	北~南東	27.01~27.22	26.60~26.36
40SD6	2.7	0.6~1.0	椀~皿状	14~40	N-1° -E	26.54~26.72	26.42~26.45

1号溝(40SD1)(第5・7図、写真図版5)

〈位置・検出状況〉調査区中央の2号溝と築地塀に挟まれた場所に位置する。北側は石敷及びP7付近において不明確で検出できず、南側は攪乱で平面的に把握することはできなかった。〈新旧関係〉P

17を切っており、同遺構より新しい。〈埋土〉上位はにぶい黄色土、中位は暗灰黄色粘土、下位はオリーブ黄色粘土を主体とした自然堆積を呈する。〈底面〉底を検出した2ヶ所のトレンチは、2mしか離れていないため、高低差はほとんどない。〈出土遺物〉無。

SD2 (第5・7・9図、写真図版5・6)

〈位置・検出状況〉調査区中央を南北に縦断し、築地塀と並行している溝である。南側の33次調査2号溝と一連の溝であり、双方を併せた距離は約20mを測る。〈新旧関係〉北側では石敷と接しており、溝の東側肩部は石の面を揃えていることから、溝と石敷が同時期にあったと考えられる。ただし、前述の33次調査区では12世紀の整地層や築地塀の崩壊土を掘りこみ、無量光院段階に埋め戻されたことから(断面19-20・35-36・57-58)、築地塀よりは新しいと考えられる。一方で築地塀と石敷は同時期であると考えられることから、石敷のみ築地塀の廃絶以降も使用したのかもしれない。この点は次年度以降の調査で新旧関係を含め、整理する必要がある。〈埋土〉上位は暗灰黄色土で埋められた人為堆積、中位は黒褐色粘土を主体とした自然堆積で浅黄色ブロック・炭を多く含んでいる。上～中位では何時期かの浚渫を受けたと思われる。下層は浅黄色粘土ブロックを含む灰色粘土層を主体とした自然堆積を呈する。なお、北側では上位層が攪乱により失われており、中位と下位の境(断面19-20の6層付近)では、比較的大ぶりの石が含まれていた。

〈底面〉南から北に向かうにつれて低くなり、南断面11-12と北断面49-50では高低差は43cmを測る。〈出土遺物〉かわらけ、中国産白磁(No.12)、国産陶器(渥美:No.19～21、須恵器系:No.26・28)、瓦(No.44・54・90)、土壁(No.132)、種子(瓜:No.139・140、桃:No.140～142、145～147)などが出土している。かわらけは上～中層にかけて多く(No.1～3)、下層は少ない。下層からはロクロかわらけ(No.5)が見つまっているが、種類不明のかわらけの小破片も出土しているので、手づくねが含まれるか否かは確かではない。

SD3 (第5・12図、写真図版6)

〈位置・検出状況〉調査区南西側に位置する北西-南東方向に延びる溝である。無量光院造営時の整地層とその直下に堆積する灰黄～灰オリーブ土の下層が検出面であることから、トレンチ及び攪乱の壁面で遺構を確認している。〈新旧関係〉無量光院造営時の整地層下から検出したことから、無量光院より古い遺構である。なお、方向的に2号溝と交差するはずだが、当該部分が攪乱によって失われており、2号溝との新旧関係は不明である。〈埋土〉灰オリーブ～にぶい黄色土を主体とした自然堆積を呈するが、何度か浚渫を行った様子が伺える。〈底面〉西から東に向かって低くなり、高低差は断面7-8と61-62では24cmを測る。〈出土遺物〉かわらけ、瓦、鉄滓が出土している。かわらけは上面において手づくねが1点出土したが、他はロクロである。瓦はNo.42の丸瓦を掲載した。

SD4 (第5・12図、写真図版6)

〈位置・検出状況〉調査区南西側に位置する東西方向に延びる溝である。無量光院造営時の整地層とその直下に堆積する灰黄～にぶい黄色土の下層が検出面であることから、トレンチ及び攪乱の壁面で遺構を確認している。〈新旧関係〉無量光院造営時の整地層下から検出したことから、無量光院より古い遺構である。なお、方向的に2号溝と交差する部分が攪乱と重なっており新旧関係は不明である。〈埋土〉暗灰黄～灰オリーブを主体とした自然堆積を呈する。〈底面〉地形に合わせて西から東に向かうにつれて低くなると思われるが底の調査は一部である。〈出土遺物〉かわらけ、瓦が出土した。このうち、No.11のロクロかわらけ、No.61の平瓦、No.96・98・109の瓦を掲載した。

SD5 (第5・6図、写真図版4)

〈位置・検出状況〉調査区西側では、北・中央・南に3ヶ所の東西方向のサブトレンチを設けている。北と中央において南北方向に延びる溝状の遺構を確認したものが本溝である。北側では東側土塁の下層

で西肩を確認したものの、東肩が石敷の端で立ち上がるのか、石敷の下に潜り込むのか不明確であった。中央では北側で検出している5号溝の続きと考えられる落ち込みがあるが、当初別々に考えていたため遺物は西側中央トレンチ（整地）で取り上げている。

＜新旧関係＞無量光院東土塁の下から検出したことから、無量光院より古い遺構である。＜埋土＞浅黄色砂質土を主体とした自然堆積を呈する。＜底面＞北から南に向かうにつれて低くなり、高低差は17cmを測る。＜出土遺物＞かわらけ、陶器、瓦、木片等が出土しているが、中央トレンチからの出土が大半を占める。層位的には上層からの出土が多く、土塁基底部の層に対応する。下層ではかわらけの量が減り、細片主体であることから、はっきりとは言えないがロクロの破片のみの印象がある。断面15-16上層の3層からかわらけ、瓦、不明木片が少量出土し、下層5層からも瓦1点出土した。

SD6（第5・12図、写真図版6）

＜位置・検出状況＞調査区東側、現在の県道際に位置する。この県道はかつて近世の奥州道中であり、道路際からは近世の道路側溝が確認されることが多い場所である。＜新旧関係＞石敷直上に堆積する灰黄色砂層を掘り込んでいることから、無量光院以前の遺構よりは新しいと考えられるが、上位層が攪乱によって失われており、無量光院との新旧関係は不明である。＜埋土＞灰黄～灰色・黄灰砂を主体とした自然堆積を呈する。＜底面＞北から南に向かうにつれて低くなり、高低差は3cmを測る。＜出土遺物＞無。＜性格＞時期不明な溝のため、断定はできないが、位置的に近世の道路側溝となる可能性が高い。

（3）築地塀（第5・8・9図、写真図版3・4）

＜位置・検出状況＞調査区中央やや東寄り、2号溝の東側約1mで確認した。南の33次調査で検出した築地塀の続きと考えられ、版築の痕跡を確認したことから築地塀と判断したものである。石敷より南側では、築地塀の上面に築地塀を崩した発生土もしくは崩落土が覆っていたため、攪乱を利用した断面観察において位置を把握した部分が大きく、平面図には破線で示した箇所が多くなっている。＜延長方向＞南北方向に延びており、検出長は8.8mを測る。北側に位置する石敷の範囲からは確認していない。なお、次年度調査予定である石敷北側に追跡トレンチを設けて確認したところ、同様に版築の痕跡を確認し、石敷の北側にも築地塀の続きがあることが確認された。詳細は次年度確認する予定である。＜堆積状況・規模＞全体的に崩落もしくは崩されている様子が看取され、最も高さが残っていた箇所は断面83-84で65cmである。同断面では上から35cmは明黄褐色粘土と褐色土が層状に積まれ、下層30cmは灰白の粘土ブロックとにぶい黄褐色が混入した状態である。基底部の幅は最大1.58mを測る。

（4）石敷（第5・9・10図、写真図版1～3）

＜位置・検出状況＞調査区北側において検出した。本来は無量光院跡の整地層に覆われていたため見えなかったはずだが、現代の攪乱が上位層を攪拌していたため、攪乱土を除去した段階で遺構確認ができたものである。また、今回の調査区は昭和40年代に公有化まであった店舗兼住宅を建設する際に石敷が見つかったとする話もあった場所である。＜新旧関係＞石敷の直上に無量光院の整地層もしくは整地層下の自然堆積層が残存していたことから、無量光院以前の遺構と考えられる。また、中央付近では2号溝と接しており、溝の東側肩部は石の面を揃えていることから、溝と石敷が同時期にあったと考えられる。＜規模＞東西方向12.4m、南北方向6.07mを測る。2条の溝で3つに区画され、一番東側では径12～20cm、中央では30～60cm、西側では15～35cmの石が敷かれていた。石敷面は平坦ではなく西から東に向かうにつれて低くなり、高低差は40cm程を測る。石の配列は端の見切り石の縁はそろえる様にはしているものの、内部は規則的に配置している様子は無い。ただし、前述の通り2号溝

に接する縁や、同様に東側の溝も両側の縁を揃えており、石敷と両者の溝は同時代のものである可能性が高い。特に後者は幅が35～40cmで築地塀と同方向を示し、約1m離れた石敷東辺とも平行に延びていることから、雨落溝の可能性はある。

＜軸線＞石敷の方向は北から東へ13～15度振れており、無量光院跡の軸線（東へ8度）とは異なっている。＜出土遺物＞かわらけ（No.6）、国産陶器（渥美：No.23）、瓦、鉄滓（No.150）などが出土している。瓦は唐草文軒平瓦（No.36・37）、軒丸瓦（No.38）、丸瓦・平瓦等多数出土しており、今回の瓦の大半は石敷上から出土していた。

（5）土塁（第5・13図、写真図版4）

今回の調査地点は、かつて住宅地で土塁を削り平坦地を広げた影響で、法面はほぼ垂直に切られていた。調査ではその法面を利用し、北・中央・南側の3か所のトレンチを設定した。

北側トレンチは土塁が北に向かって低くなっている箇所、裾の広がった状況が他の箇所より顕著に確認できた。地山の上から薄い層状の自然堆積層が堆積し、その上部には淡黄～浅黄色粘土ブロックが盛土されていた。盛土は南西から北東方向に向かって下がる傾斜が層状に重なっていた。

中央トレンチでは西側に攪乱が深く入り込んでおり、平面では攪乱が著しい。攪乱が浅い箇所では、地山が表土から25cm程の位置にあり、地山面で柱穴を1個検出している。また、この中央トレンチ付近を起点として北東側方向・南西側方向双方に向かって土を盛り、土塁を構築した状況が看取される。

南側トレンチは土塁が高くなっている箇所であり、約3mの高さまで調査している。盛土の状況は、北西側（内側）から南・東側（外側）に向かって層位が下がっている状況である。土の堆積状況は斜面上位から下位に向かって投げ込んでいる様で、やや急な角度である。盛土の下は北側と同様自然堆積層が薄く水平に入っており、灰色砂層下では遺構と思われる窪み状の遺構も確認できる。この灰色の層は土塁の底面全体にあり、石敷や溝等の遺構を広く覆っている。土塁は無量光院造営時に構築をしていると考えられることから、この灰色層をキー層として、無量光院との前後関係を把握することが可能となった。なお、灰色砂層の上には、多量の炭を主体として淡黄色や浅黄色ブロックが含まれた層が薄く堆積していた。

（6）柱穴（第5・8・9・11図、写真図版1・2）

19個を検出した。個々の属性は一覧表を参照願いたい。ここでは傾向について触れる。

＜門の可能性のある柱穴＞

P1～3は調査区北側の石敷北端で検出している。上層は大きく攪乱で掘削され、特にP2は柱が攪乱により倒されているため、掘り込みと倒れ込んだ際の攪拌の影響が重なっている可能性がある。柱の東側が本来の位置であり、上部を西に持っていかれ、底が浮いた状態となっていると考えられる。北側は攪乱を掘り残したため掘方の径は不明である。

石敷の南端においてP4～6を検出した。P4はP1・2と同様に柱材を検出しており、掘り方の径が大きい。P5も埋土や規模が似ているため、P1～6は同一の遺構に伴う柱穴ではないかと考えられる。3個の柱穴が石敷を挟んで相対していること、築地塀が石敷で途切れ、石敷と築地塀の境に柱穴が位置することから勘案すると、石敷は通路で、築地塀に伴う門である可能性が考えられる。位置関係はP3・6を支柱穴として、P1・2、P4・5が添柱もしくは貝形柱ではないかと考えられる。支柱穴間の距離は3.6mである。方向はN15°Eである。無量光院以前の遺構と考えられる。

＜築地塀に伴う柱穴＞

P7は半裁し東側を調査しているが、柱部分が腐り土壌化した状態であった。築地塀西側では他に

P12・P17と北の拡張部のP18を検出している。築地塀東側で検出している柱穴（P8・P10、P13～P19）は、築地塀に沿うように配列されている。規模はP7が大きく、他の径は30cm以下であるが築地塀に関係した可能性がある。P19は土塁裾側の中央トレンチから検出している。プランの確認だけであったが、上部は攪乱されており、年代等は不明である。

No	規模(cm)	形状	柱痕跡(cm)	柱材(長・幅:cm)	底面標高(m)	深さ(cm)	備考
P1	(120)×(110)	円形		114×21	25.70まで掘削	[110]	
P2	(110)×(70)	楕円形か			25.56まで掘削	[124]	
P3	(120)×100	円形		155×21	25.46	134	
P4	100×87	円形		70×20	25.92	94	
P5	(105)	楕円形か	20×19	50	26.42まで掘削	[53]	
P6	不明			底面より一部検出	26.46まで掘削	[46]	断面47-48に検出
P7	47×38	楕円形	20		26.83まで掘削	[26]	
P8	29×(20)	(円形)					
P9	27×(18)	円形	13				
P10	18×16	円形	6				築地塀跡脇検出
P11	30×(25)	(円形)			26.40まで掘削	34	築地塀下で確認断面51-52
P12	27×(8)	(円形)			26.35まで掘削	41	築地塀下で確認断面51-52
P13	10	円形					築地塀痕跡脇検出
P14	14	(円形)					築地塀痕跡脇検出
P15	23×22	円形					築地塀跡脇検出
P16	25×20	楕円形					築地塀跡脇検出
P17	11	円形					築地塀跡脇検出
P18	33×28	円形	16				築地塀北側延長部
P19	28×22	楕円	15×9				土塁裾中央トレンチ

3 出土遺物（第14～19図、写真図版7～9）

今回の調査では、かわらけがコンテナ4箱、中国産磁器1点、国産陶器21点、須恵器1点、羽口、土壁、木製品、種子、鉄滓、銭貨等が出土した。

傾向としては、瓦・羽口・鉄滓の出土が多いことである。また、国産陶器は出土しているものの、攪乱及び比較的無量光院跡の段階に近い2号溝上位から多く出土し、それより下層では出土していない傾向がある。

かわらけ コンテナ4箱分出土した。主に2号溝や石敷等を覆う浅黄色粘土層、攪乱から多く出土しているが、破片主体で形の分かるものは少ない。傾向としては浅黄色粘土層や2号溝上位では手づくねとロクロが混在しているが、2号溝下位～3号溝は手づくねの比率が少ない。

中国産磁器 白磁壺片が1点出土したが、細片のため写真掲載した（No.12）。

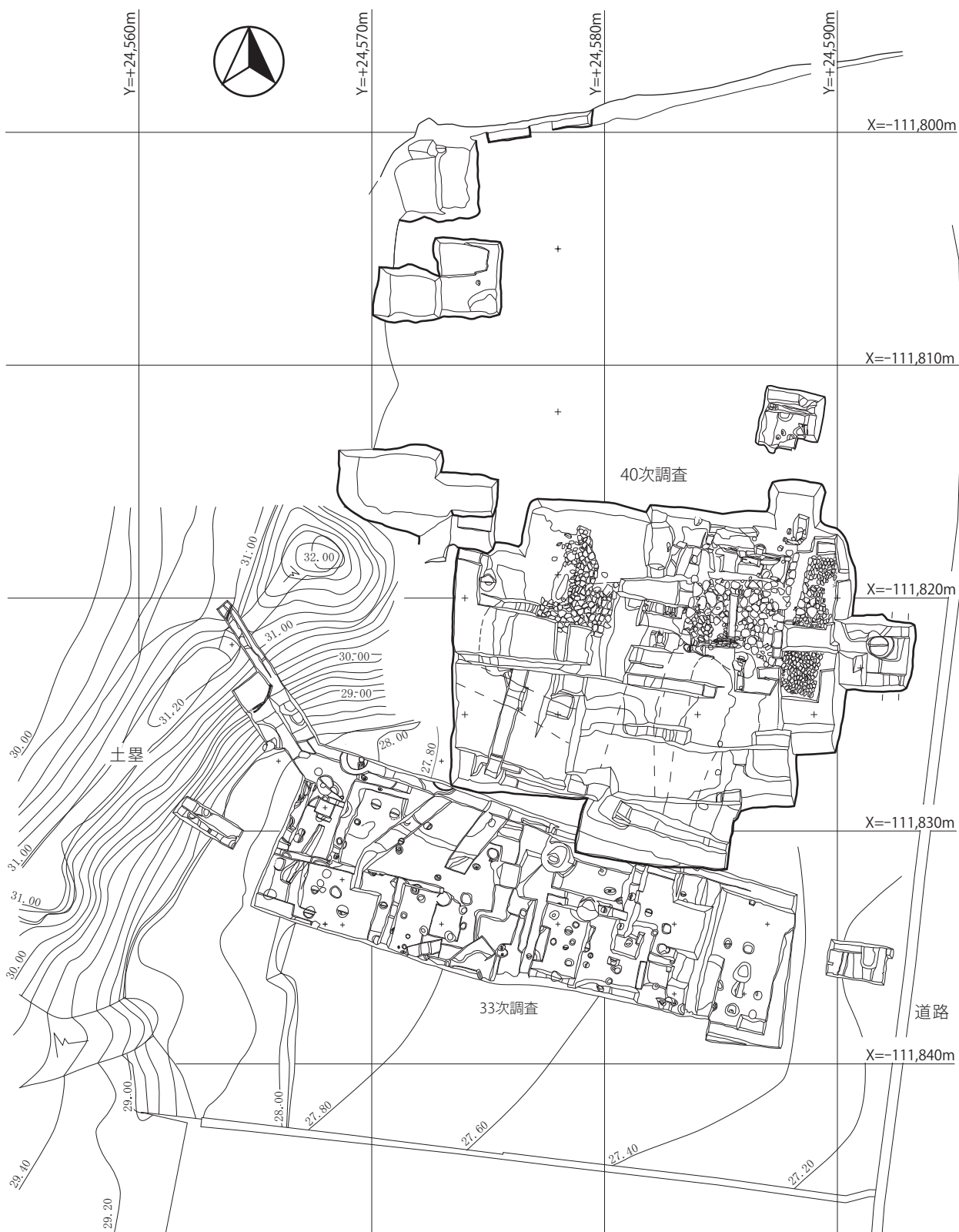
国産陶器 攪乱から多く出土していることで、周辺に元々あったものが混ぜ込まれた状態である。調査面積の影響もあろうが土塁下の灰色層からは出土するが下の遺構からの出土はない。

瓦 これまでの無量光院の調査のなかでも、今回の調査では瓦を多く出土している特徴がある。今回見つかった瓦は石敷の直上やその上位に広がる灰色砂層から出土しており、無量光院以前と考えられる層位からの出土が主体を占めている。軒丸瓦は三巴文（No.35）、軒平瓦は宝相華唐草文（No.36・37）の瓦が出土しており、年代は12世紀第2四半期と考えられる。また、No.35は、型の影響で中央に筋が浮いて通っている。この筋は隣接する33次調査で出土した三巴文（No.416）にもあり、天地の方向までは合わせていないものの2つが同じ型（同範）を使用していることが分かった（第20図参照）。

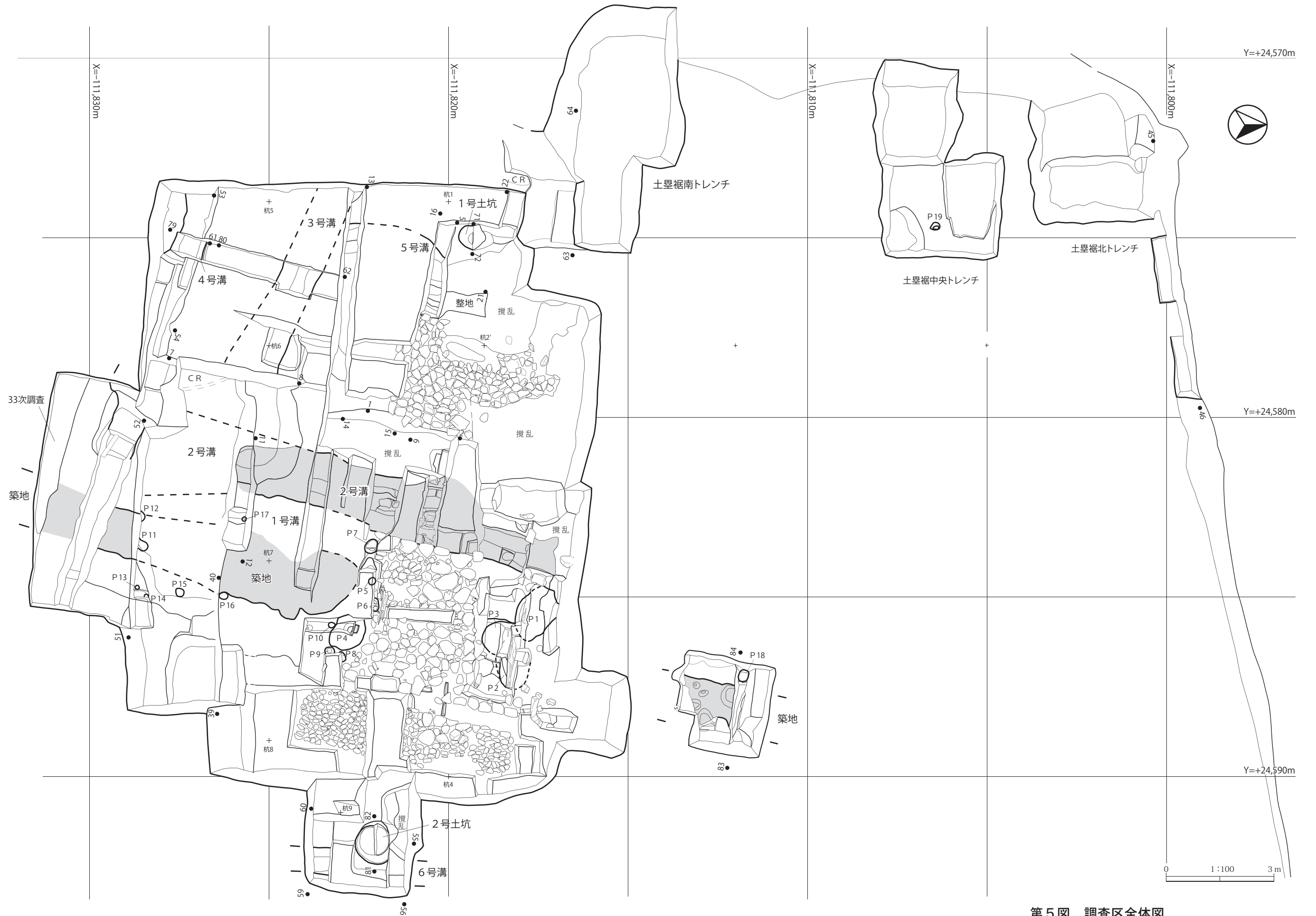
羽口・鉄滓 北東側の浅黄色粘土や灰色砂層からまとまって出土している。形の分かるものを代表掲載した（No.110～119）。無量光院造営時に周辺に工房等があったことが示唆される遺物である。

土壁 2号土坑や2号溝、攪乱などから少量出土している。1～2cm大の小破片が多く一部にスサ痕が入るが摩滅しているものが多い（No.132・133）。

木製品 2号溝とP3から出土している。2号溝では北側の炭が多い中間層から集中して出土している。P3出土の滑車四半分様の製品は面取りなど行っているが用途は不明である。P6の北側で出た

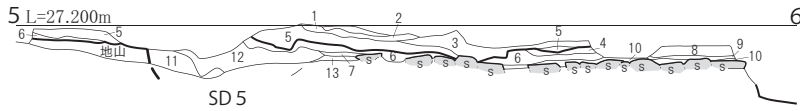


第4図 33・40次遺構配置図



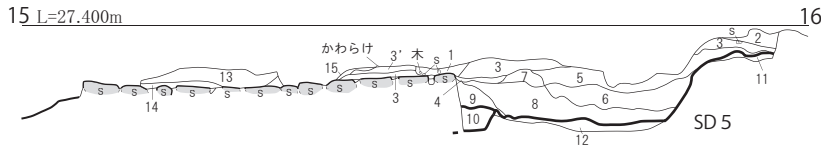
第5図 調査区全体図

調査区西側地区



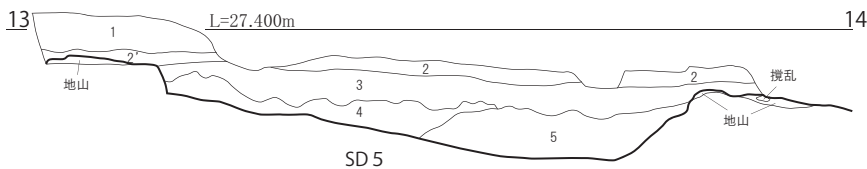
5-6

1. 2.5Y4/2暗灰黄色砂 7.5Y6/3オリーブ黄色・炭含
2. 10G5/1緑灰色粘土ブロック 10YR4/2灰黄褐色
3. 5Y4/1灰色粘土 5Y7/3浅黄色砂ブロック・砂含
4. 5Y4/2灰オリーブ色砂 粗い砂層
5. 10Y4/1灰色砂 炭含 5G4/1暗緑灰色粘土・10YR5/3にぶい黄褐色砂混じる(2層下は8層に似るが小石・炭多いため攪乱による掘り込み含まれるか)
6. 5Y5/2灰オリーブ色砂 10Y5/2オリーブ灰色の粘土へ砂混じる(2層下は10Y5/1灰色砂 しまりある)
7. 2.5Y5/2暗灰黄色砂
8. 7.5Y5/1灰色砂 10Y4/1灰色粘土ブロック混入 炭少量
9. 2.5Y4/2暗灰黄色 砂層 10層より粗い
10. 2.5Y4/2暗灰黄色 砂層
11. 10YR4/1褐灰色 2.5Y5/3黄褐色シルト 7.5Y5/3灰オリーブ色シルトや7.5Y6/3オリーブ黄色粘土がマール状に混じる 炭・鉄分含
12. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト 2.5Y5/3黄褐色シルト 7.5Y5/3灰オリーブ色シルトや7.5Y6/3オリーブ黄色粘土がマール状に混じる 炭・鉄分含
13. 10G6/1緑灰色粘土 10G6/1緑灰色砂・2.5Y4/2暗灰黄色砂ブロック混入



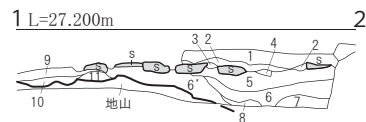
15-16

1. 攪乱 2.5Y6/3にぶい黄色粘土 しまり有 粘性有 5Y7/2灰白色粘土ブロック 2.5Y6/4にぶい黄色砂質土 鉄分・炭・φ1~2cmの小石混入
2. 2.5Y6/4にぶい黄色粘土 しまり有 粘性少し有 10YR5/4にぶい黄褐色混入 炭・鉄分含 10YR8/2灰白色少量
3. 2.5Y5/3黄褐色砂質土 しまり有 粘性無 鉄分・炭・2.5Y5/3黄褐色砂含
- 3' 2.5Y5/3黄褐色砂質土 しまり有 粘性無 鉄分 2.5Y5/3黄褐色砂含
4. 2.5Y5/3黄褐色砂質土 しまり有 粘性無 5Y6/3オリーブ黄色土・鉄分含・炭少量
5. 2.5Y7/4浅黄色土 しまり有 粘性無 2.5Y5/3黄褐色・10YR4/2灰黄褐色・鉄分混入 10YR8/2灰白色粘土・炭少量
6. 10YR4/2灰黄褐色土 しまり有 粘性無 2.5Y6/4にぶい黄色・2.5Y7/4浅黄色ブロック混入 鉄分含 炭少量
7. 2.5Y5/3黄褐色砂質土 しまり有 粘性少し有 5Y6/3オリーブ黄色ブロック混入 5Y7/4浅黄色砂・鉄分・炭少量
8. 5Y7/4浅黄色砂質土 しまり有 粘性やや有 2.5Y6/4にぶい黄色・10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック 鉄分混入 炭含
9. 5Y7/4浅黄色砂質土 しまり有 粘性やや有 2.5Y6/4にぶい黄色・5Y7/6黄色粘土ブロック混入 炭少量
10. 10YR4/2灰黄褐色土 しまり有 粘性有 5Y7/4浅黄色粘土ブロック 炭含 5Y7/6黄色粘土ブロック少量
11. 2.5Y7/6明黄褐色 砂質土 しまり有 粘性少し有 鉄分・10YR8/2灰白色粒含 部分的に5Y6/3オリーブ黄色シルト含 地山
12. 2.5Y7/4浅黄色土 しまり有 粘性有 鉄分含 部分的に2.5Y7/4浅黄色砂含 地山
13. 5Y4/2灰オリーブ色砂 5Y6/3オリーブ黄色砂層 粘土ブロック少し混じる
14. 5Y4/2灰オリーブ色砂
15. 5Y3/1オリーブ黒色シルト 炭多く入る 5Y7/3浅黄色粘土ブロック混じる



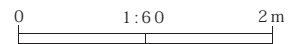
13-14

1. 10YR7/3にぶい黄褐色粘土 しまり有 粘性有 10YR5/3にぶい黄褐色~10YR4/2灰黄褐色 粘土ブロック混入 10YR8/2灰白色
2. 2.5Y5/2暗灰黄色土 しまり有 粘性少し有 鉄分・炭含 下位を中心に2.5Y7/3浅黄色砂を層状に含
- 2' 2.5Y6/3にぶい黄色 しまり有 粘性少し有 2.5Y7/4浅黄色砂質ブロック 鉄分含
3. 2.5Y4/2暗灰黄色 2.5Y6/3にぶい黄色のしまりある砂のブロック混入 炭小ブロックを筋状に含
4. 2.5Y7/2灰黄色粘土ブロックと砂の混合層
5. 10Y5/1灰色 2.5Y3/2黒褐色粘土ブロック 10Y5/2オリーブ灰色砂混じる



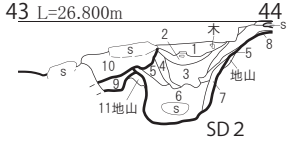
1-2

1. 2.5Y5/2暗灰黄色砂 10GY4/1暗緑灰色
2. 5Y5/2灰オリーブ色砂
3. 2.5Y5/2暗灰黄色砂 しまりある 鉄分・炭少量
4. 5GY5/1オリーブ灰色粘土
5. 10GY5/1緑灰色粘土 同砂や2.5Y4/2暗灰黄色砂や粘土混じる
6. 2.5Y4/2暗灰黄色砂 5Y5/4オリーブ色粘土ブロックや10Y5/2オリーブ灰色砂など混じる
- 6' 6層と同じで8層が混じる
7. 5Y7/4浅黄色砂 2.5Y5/4黄褐色シルト混入 鉄分含
8. 5Y6/2灰オリーブ色粘土や5Y5/1灰色の粘土ブロック 混合
9. 2.5Y5/3黄褐色砂 しまりある 10Y5/1灰色粘土少量 2.5Y3/1黒褐色シルト混じる
10. 5Y4/1灰色砂 10GY5/1緑灰色粘土ブロックや5Y5/2灰オリーブ色砂混入 炭含
11. 10GY5/1緑灰色粘土 5GY5/1オリーブ灰色砂混入



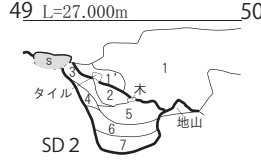
第6図 調査区西側断面図

SD1・SD2



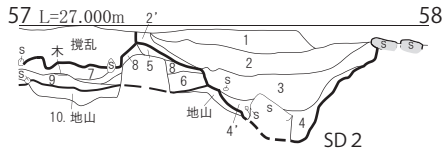
43-44

- 5Y3/1オリーブ黒色粘土 同砂が下位を中心にレンズ状に堆積している 炭・木片含
- N1.5/黒色炭層間に7.5Y3/1オリーブ黒色粘土が入る 木片も混じる
- 5Y4/1灰色粘土 5GY6/1オリーブ灰色粘土ブロックと炭が混じる
- 5Y4/2灰オリーブ色粘土 5Y6/3オリーブ黄色の粘土ブロック 炭混入
- 5Y4/2灰オリーブ色粘土 4層より混じりが少なく粘性ある
- 5Y5/2灰オリーブ色粘土 5Y6/3オリーブ黄色粘土ブロック多く混入
- 5Y5/2灰オリーブ色粘土 5Y6/3オリーブ黄色粘土ブロックが6層より細かい
- 10YR5/3にぶい黄褐色シルト 5Y6/2灰オリーブ色粘土ブロック混入
- 5Y6/3オリーブ黄色 5Y5/2灰オリーブ色砂が混入
- 下の方中心に小石や5Y3/1オリーブ黒色の土が入る 上は2.5Y6/3にぶい黄色や5Y7/2灰白色の粘土ブロックで12cの盛土様の土 攪乱
- 5Y6/3オリーブ黄色粘土 10YR4/2灰黄褐色粘土 まだらに入る 地山



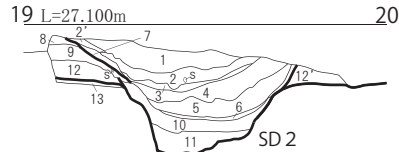
49-50

- 2.5Y6/6明黄褐色粘土ブロックや2.5Y4/2暗灰黄色砂・川原石混じる
- 5Y3/2黒褐色砂 コンクリート含
- 5Y3/2オリーブ黒色シルト 5GY5/1オリーブ灰色の粘土ブロック混入 木片・炭含
- 10Y4/1灰色粘土 上方に5Y6/3オリーブ黄色粘土ブロックや砂・炭混じる
- 5Y5/3灰オリーブ色粘土 砂・炭混じる
- 5Y4/2灰オリーブ色粘土 5G5/1緑灰色粘土ブロック 2.5Y3/2黒褐色のシルトブロック・炭混入
- 10GY6/1緑灰色粘土ブロック 5Y3/2オリーブ黒色シルト・炭混じる 6層よりブロック大きい



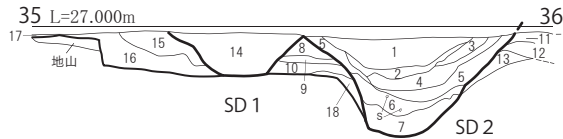
57-58

- 5Y6/2灰オリーブ色粘土 2.5Y7/6明黄褐色粘土ブロック・5Y5/2灰オリーブ色砂混入 上方に鉄分多い
- 5Y3/2オリーブ黒色粘土 2.5Y6/2灰黄色のシルトブロック・2.5Y2/1黒色粘土ブロック混入
- 2.5Y3/1黒褐色粘土や炭多い
- 2.5Y3/2黒褐色粘土や砂混じる 下の方は2.5Y6/2灰黄色粘土ブロック混入する 炭含
- 5Y4/1灰色粘土ブロック 5GY6/1オリーブ灰色・腐植含
- 2.5Y3/2黒褐色の粘土ブロック混入
- 4と同層と思われるが5Y5/2灰オリーブ色砂多い
- 2.5Y4/2暗灰黄色砂 10Y6/2オリーブ灰色の粘土や砂のブロック 10YR4/2灰黄褐色シルトブロック混入
- 10Y6/2オリーブ灰色粘土 5Y5/2灰オリーブ色砂混入 炭一部に含
- 5Y7/2灰白色粘土 2.5Y4/2暗灰黄色砂や鉄分含
- 5Y7/3浅黄色粘土 2.5Y3/1黒褐色砂少し混じる 炭含
- 5Y5/1灰色粘土 2.5Y7/2灰黄色粘土ブロック・鉄分含
- 5Y6/1灰色 2.5Y5/2暗灰黄色粘土なども混じる 地山



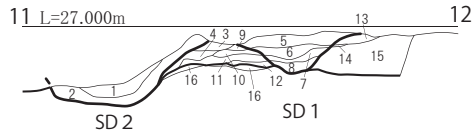
19-20

- 2.5Y5/2暗灰黄色土 しまり有 粘性少し有 中心に鉄分混入 10YR8/2灰白色粒・炭含 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック少量
- 2.5Y5/2暗灰黄色土 しまり有 粘性少し有 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック・2.5Y3/2黒褐色混入 鉄分・炭含
- 2.5Y5/2暗灰黄色土 しまり有 粘性少し有 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック含 10YR8/2灰白色少量 炭・鉄分微量
- 2.5Y6/2灰黄色粘土 しまり有 粘性やや有 2.5Y5/2暗灰黄色をラミナ状に含(8枚くらい入る)最上位は2.5Y7/2灰黄色に近い
- 5Y4/1灰色粘土 しまり有 粘性少し有 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック・2.5Y4/2暗灰黄色土・炭混入 ブロックは下位は大きく(1~2cm)上位は小さい(5mm以下)
- 2.5Y3/1黒褐色土 しまり有 粘性やや有 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック混入 2.5Y4/2暗灰黄色土・炭・鉄分含 鉄分・炭は斜面上位の西側から多く入っている
- 2.5Y5/2暗灰黄色粘土 しまり有 粘性有 3層とは異なりラミナ状は認められない単層
- 2.5Y5/3黄褐色土 しまり有 粘性少し有 10YR8/2灰白色・2.5Y5/2暗灰黄色少量
- 2.5Y5/2暗灰黄色粘土 しまり有 粘性少し有 鉄分と10YR8/2灰白色粒少量
- 2.5Y5/3黄褐色土 しまり有 粘性少し有 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック多く含 鉄分混入 10YR8/2灰白色粒少量
- 5Y4/1灰色粘土 しまり有 粘性有 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック多く含 炭層
- 5Y4/1灰色粘土 しまり有 粘性有 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック混入 炭層
- 2.5Y5/3黄褐色土 しまり有 粘性少し有 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック少量 鉄分含
- 10YR6/3にぶい黄褐色土 しまり有 粘性少し有 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック少量 鉄分含
- 2.5Y7/4浅黄色粘土 しまり有 粘性やや有 2.5Y7/4浅黄色砂質シルト含 鉄分含



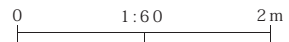
35-36

- 2.5Y3/1黒褐色粘土 7.5Y6/2灰オリーブ色粘土ブロック混入 上の方は7.5Y6/1灰色粘土に砂が混じる
- 10Y5/1灰色粘土 鉄分少し含
- 2.5Y6/3にぶい黄色粘土 10YR4/1褐灰色粘土ブロック混じる
- 2.5Y3/1黒褐色粘土 7.5Y6/2灰オリーブ色粘土ブロック混入 上は7.5Y6/1灰色粘土に砂が混じる 混じるブロックは1層より大きい
- 5Y6/1灰色粘土 砂混じる 5Y6/2灰オリーブ色粘土ブロック混入 鉄分・炭少し含
- 5Y6/1灰色粘土 砂混じる 5Y6/2灰オリーブ色粘土ブロック混入 鉄分・炭少し含 10Y5/1灰色粘土・砂含む 小石含 5Y7/2灰白色粘土ブロック混入
- 5Y6/1灰色粘土 5Y5/3灰オリーブ色粘土少し混入
- 6層に似る 5Y5/2灰オリーブ色粘土 砂を多く含 下の方に10Y6/1灰色砂ブロック含
- 2.5Y4/3オリーブ褐色粘土 10YR3/3暗褐色・2.5Y7/4浅黄色粘土ブロック混入
- 7.5Y5/2灰オリーブ色砂 同粘土混入 鉄分含
- 2.5Y5/2暗灰黄色シルト 下方に砂や炭・鉄分含
- 2.5Y4/2暗灰黄色砂 10Y7/2灰白色小粘土ブロック混入
- 2.5Y6/4にぶい黄色粘土 同砂・2.5Y5/3黄褐色粘土など含
- 2.5Y5/3黄褐色粘土 5Y7/3浅黄色粘土ブロックや2.5Y5/2暗灰黄色砂などが混じる
- 2.5Y4/2暗灰黄色粘土 2.5Y7/2灰黄色粘土ブロック・鉄分混入
- 2.5Y7/3浅黄色砂 同粘土ブロック混入 鉄分含
- 10YR5/4にぶい黄褐色シルト 5Y7/2灰白色粘土ブロック鉄分含
- 5Y7/3浅黄色粘土ブロック主体 5Y7/1灰白色粘土少し混じる 崩壊層 地山 10YR5/4にぶい黄褐色シルト 5Y7/2灰白色粘土ブロック・鉄分含



11-12

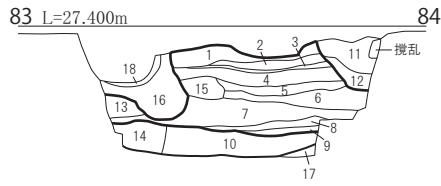
- 5Y5/2灰オリーブ色粘土 しまり有 粘性やや有 5Y8/3淡黄色粘土ブロック・2.5Y6/2灰黄色粘土・炭を含む層
- 2.5Y5/2暗灰黄色粘土 しまり有 粘性やや有 5Y8/3淡黄色粘土ブロック少量 10YR8/2灰白色粒と鉄分を上位中心に含
- 2.5Y6/3にぶい黄色粘土 しまり有 粘性やや有 5Y8/3淡黄色粘土ブロック少量 鉄分と10YR8/2灰白色粒少量
- 2.5Y5/3黄褐色粘土 しまり有 粘性やや有 5Y8/3淡黄色粘土ブロック含 鉄分と10YR8/2灰白色粒少量
- 2.5Y6/3にぶい黄色土 しまり有 粘性少し有 5Y8/3淡黄色粘土ブロック少量 鉄分と10YR8/2灰白色粒含
- 2.5Y5/2暗灰黄色粘土 しまり有 粘性やや有 5Y8/3淡黄色粘土ブロック混入 10YR8/2灰白色粒含 鉄分少量
- 2.5Y5/2暗灰黄色粘土 しまり有 粘性少し有 2.5Y8/2灰白色砂含 5Y8/3淡黄色砂質土と鉄分少量 炭微量
- 5Y6/4オリーブ黄色粘土 5Y7/3浅黄色粘土及び砂質土を多く含 10YR8/2灰白色粒と鉄分含
- 5層と同じだが5Y8/3淡黄色ブロックを含まない層
- 5Y6/4オリーブ黄色砂質土 しまり有 粘性なし 鉄分含 10YR8/2灰白色粒少量
- 5Y6/3オリーブ黄色砂質土 しまり有 粘性なし 鉄分混入 5Y5/1灰色・5Y8/3淡黄色粘土 鉄分含
- 5Y8/3淡黄色粘土 しまり有 粘性少し有 5Y5/1灰色砂質土混入 10YR8/1灰白色と鉄分含
- 2.5Y5/3黄褐色 しまり有 粘性なし 鉄分混入 炭・10YR8/2灰白色粒少量
- 5Y6/3オリーブ黄色粘土 しまり有 粘性なし 鉄分混入
- 5Y6/3オリーブ黄色粘土 しまり有 粘性有 部分的に5Y6/3オリーブ黄色砂質土と鉄分(上位中心)下位は粘土のみ
- 地山



第7図 SD1・2断面図

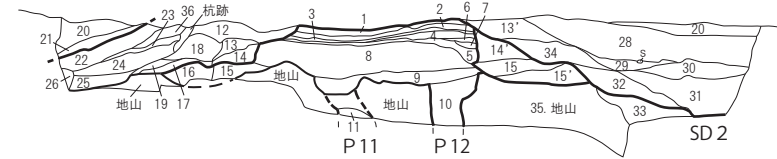
築地塀

83-84



1. 10YR4/4褐色シルト 10YR6/6明黄褐色粘土ブロック混入
2. 10YR6/6明黄褐色粘土ブロック 10YR4/4褐色混入
3. 10YR4/4褐色シルト 10YR6/6明黄褐色粘土ブロック少量
4. 10YR6/6明黄褐色粘土 2.5Y7/2灰黄色粘土ブロックや10YR4/4褐色シルトなど少量
5. 10YR5/4にぶい黄褐色シルト 同砂や5Y7/2灰白色粘土ブロック少量
6. 5Y7/2灰白色 10YR5/4にぶい黄褐色シルトや2.5Y6/6明黄褐色の砂ブロック少し混入
7. 5Y7/2灰白色 10YR5/4にぶい黄褐色の砂やシルト・鉄分含 16層下は5Y5/2灰オリブ色
8. 10YR6/3にぶい黄褐色シルト 2.5Y7/4浅黄色粘土ブロック・炭含
9. 10YR6/6明黄褐色粘土 10YR6/2灰黄褐色粘土ブロック含
10. 10YR5/2灰黄褐色～2.5Y4/2暗灰黄色シルト 2.5Y5/1黄灰色シルト・5Y7/3浅黄色粘土ブロック混入炭含
11. 10YR4/4褐色シルト 2.5Y7/3浅黄色シルト小ブロック混入 鉄分・炭含
12. 10YR4/3にぶい黄褐色 5Y7/3浅黄色粘土ブロック混入 炭・鉄分少し含
13. 5Y5/2灰オリブ色シルト 2.5Y4/2暗灰黄色粘土・7.5Y5/2灰オリブ色砂など混入
14. 5Y6/4オリブ黄色粘土ブロック 5Y4/2灰オリブ色砂混入
15. 10YR6/6明黄褐色粘土 同砂混入 一部筋状に10YR5/3にぶい黄褐色入る
16. 2.5Y3/1黒褐色シルト 5Y4/2灰オリブ色シルトブロック多く混入
17. 2.5Y7/2灰黄色粘土 地山
18. 2.5Y3/1黒褐色シルト 10YR6/6明黄褐色や鉄分がマーブル状に入り礫混入

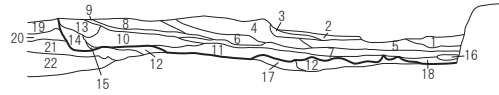
51 L=27.400m 52



51-52

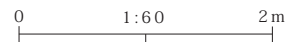
1. 10YR5/6黄褐色粘土や2.5Y5/4黄褐色シルトブロック構成砂や10YR4/3にぶい黄褐色
2. 10YR4/3にぶい黄褐色 2.5Y5/6黄褐色シルトブロック混入
3. 西側には2.5Y7/4浅黄色粘土ブロック 東側が10YR5/6黄褐色シルトが主体となる西側には砂が混入する
4. 2層に似るが2.5Y6/4にぶい黄色シルト入る
5. 10YR4/3にぶい黄褐色粘土 2.5Y5/4黄褐色や5Y7/4浅黄色粘土ブロック混入
6. 4層に似るが10YR5/6黄褐色砂含
7. 2層に似るが2.5Y6/4にぶい黄色シルトが入る
8. 5Y7/2灰白色粘土ブロック主体 2.5Y6/6明黄褐色粘土ブロック・5Y7/2灰白色砂が混じる
9. 5Y7/3浅黄色粘土ブロック 10Y6/2オリブ灰色砂混じる 東の柱穴部分には鉄分が多く5Y7/1灰白色粘土ブロック入る
10. 9層と同 粘土と砂が層状に入る 炭少量
11. 10Y7/1灰白色粘土 2.5Y6/2灰黄色粘土混じる 火山灰状の白い小ブロック含
12. 2.5Y5/3黄褐色シルト 鉄分多く含 2.5Y7/3浅黄色小ブロック少し混入
13. 5Y5/3灰オリブ色シルト 2.5Y4/2暗灰黄色少し混じる
14. 2.5Y6/3黄褐色シルト 2.5Y7/2灰黄色粘土ブロック少し混入
15. 5Y5/3灰オリブ色シルト 2.5Y4/2暗灰黄色や5Y5/3灰オリブ色砂が筋状に混入
14. 2.5Y5/3黄褐色シルト 10YR4/3にぶい黄褐色粘土ブロック混入
15. 2.5Y5/4黄褐色粘土ブロック主体 5Y5/3灰オリブ色の砂混入 2.5Y4/2暗灰黄色少し混じる
15. 5Y5/3灰オリブ色砂 2.5Y5/4黄褐色粘土ブロック混入
16. 2.5Y5/4黄褐色粘土ブロック主体 5Y5/3灰オリブ色砂混入
17. 2.5Y5/4黄褐色シルト 10Y6/2オリブ灰色砂混じる
18. 5Y5/3灰オリブ色シルト 2.5Y4/3オリブ褐色
19. 5Y5/3灰オリブ色シルト 2.5Y4/2暗灰黄色・5Y5/3灰オリブ色砂少し混入
20. 5Y7/3浅黄色粘土ブロック主体 10YR6/6明黄褐色シルト・10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロックが混入する
21. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト 2.5Y7/2灰黄色粘土ブロック少し混入 炭も少々
22. 2.5Y5/3黄褐色シルト 10YR6/6明黄褐色・5Y7/3浅黄色粘土ブロック混入鉄分含
23. 5Y5/3灰オリブ色シルト 2.5Y4/2暗灰黄色少し混じる
24. 5Y5/3灰オリブ色シルト 2.5Y4/2暗灰黄色・5Y5/3灰オリブ色砂が筋状に混入
25. 5Y3/2オリブ黒色粗い砂
26. 2.5Y5/3黄褐色粘土 5Y7/3浅黄色や2.5Y7/6明黄褐色粘土ブロック混入 小穴
28. 2.5Y5/3黄褐色砂 同粘土ブロック・2.5Y7/2灰黄色粘土ブロック混入 鉄分含
29. 5Y5/1灰色 10Y6/1灰色・2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック混入
30. 5Y5/3灰オリブ色粘土 5Y6/3オリブ黄色・10Y6/1灰色・粘土ブロック・炭混入する
31. 5Y5/2灰オリブ色粘土 5Y4/2灰オリブ色砂混入する 炭含
32. 5Y5/2灰オリブ色粘土 同砂・カーボン混入
33. 5Y6/3オリブ黄色粘土 2.5Y6/4にぶい黄色粘土・5Y5/2灰オリブ色の砂少し混入
34. 5Y5/3灰オリブ色シルト 2.5Y4/3オリブ褐色・10Y6/2オリブ灰色の粘土
35. 2.5Y7/2灰黄色粘土 上位は2.5Y5/6黄褐色粘土と2.5Y5/3黄褐色が主体となる地山
36. 2.5Y5/3黄褐色シルト 10YR6/6明黄褐色粘土ブロック少し混入 鉄分含

39 L=27.100m 40

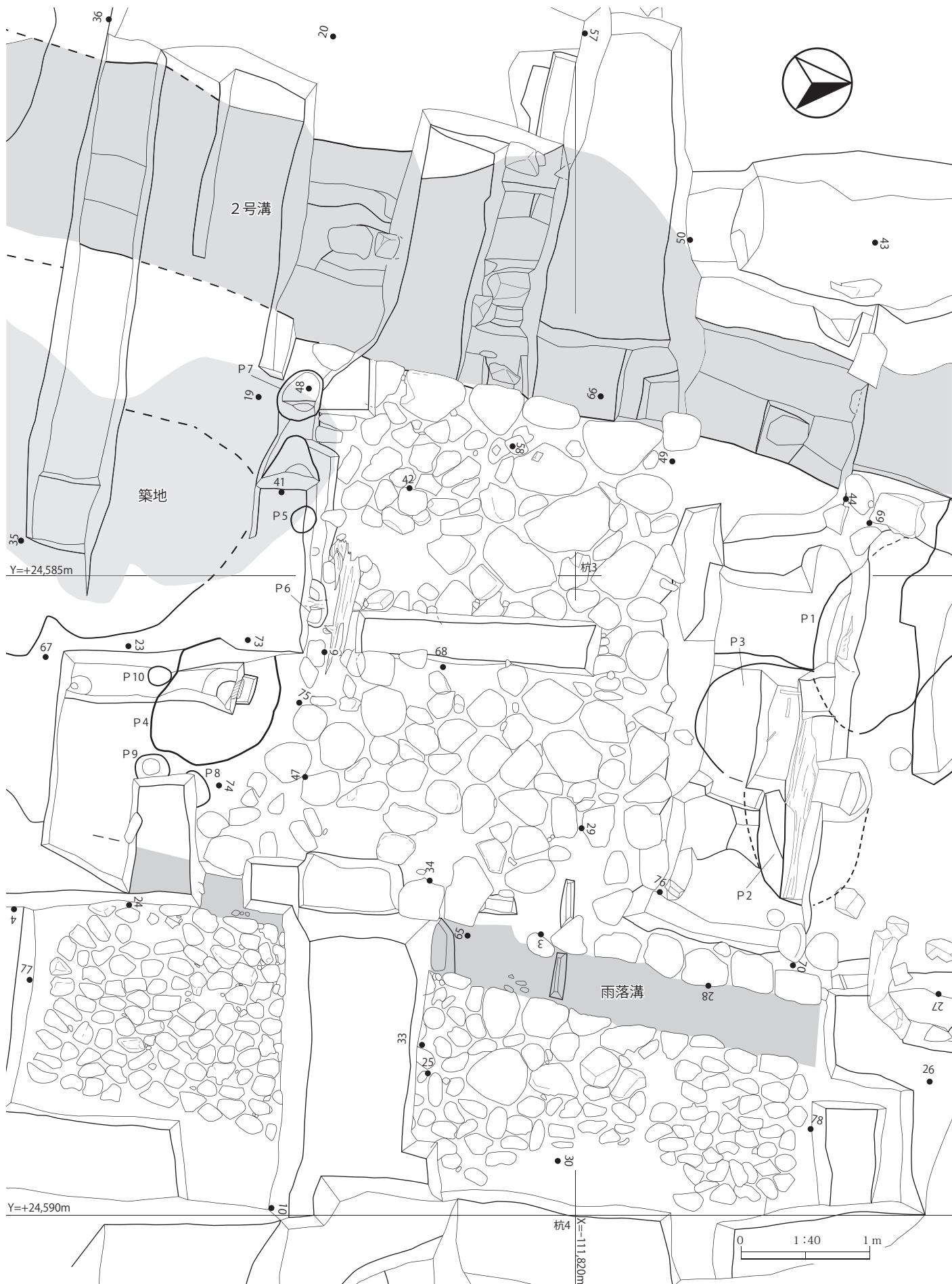


39-40

1. 2.5Y7/2灰黄色粘土 同砂ブロック・2.5Y4/1黄灰色シルトブロック・炭・かわかけ細片など混じる
2. 1と5の間層 2.5Y6/2灰黄色砂 鉄分・炭含 固くしまる
3. 5層と同 炭多い
4. 2.5Y6/2灰黄色シルト 固くしまりある 5Y7/3浅黄色粘土ブロック混入鉄分多く含
5. 2.5Y5/2暗灰黄色砂 10Y6/2オリブ灰色粘土ブロック多く含 鉄分・カーボン含
6. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト 西側には2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック筋状に入る
7. 2.5Y4/2暗灰黄色砂 鉄分・炭少し含
8. 2.5Y5/2暗灰黄色砂 鉄分含 上面には5Y7/3浅黄色粘土ブロックが見える
9. 2.5Y5/3黄褐色砂 鉄分・炭少し含
10. 2.5Y7/3浅黄色粘土 砂や鉄分含
11. 2.5Y6/4にぶい黄色粘土 2.5Y5/2暗灰黄色砂が渦をまいて混じっている流水の痕跡
12. 5Y7/3浅黄色シルト 地山
13. 7.5YR5/6明褐色シルト 砂混じる 大きいブロック
14. 5Y6/2灰オリブ色粘土 同砂混じる
15. 2.5Y4/1黄灰色砂 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック混入
16. 2.5Y4/2暗灰黄色粗い砂
17. 2.5Y7/4浅黄色砂 地山
18. 5Y5/2灰オリブ色粘土 同砂や5Y4/1灰色の砂・鉄分含
19. 5Y7/3浅黄色粗い砂 地山
20. 5Y7/3浅黄色砂 同粘土混じる 地山
21. 2.5Y7/6明黄褐色砂 部分的に2.5Y5/3黄褐色の砂や粘土混じる 地山
22. 5Y7/3浅黄色粘土 地山



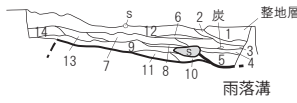
第8図 築地塀断面図



第9図 東側石敷平面

東側石敷

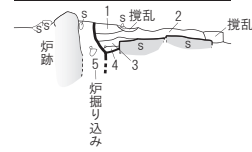
23 L=27.100m 24



23-24

1. 整地層と思われる 5Y7/2灰白色粘土
2. 2.5Y4/2暗灰黄色 鉄分・炭含
3. 7.5Y5/1灰色シルト 鉄分・砂含
4. 5Y6/3オリーブ黄色粘土 鉄分・炭含
5. 2.5Y4/2暗灰黄色 砂・炭含 下の方が粗い
6. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト 2.5Y7/4浅黄色粘土ブロック混入
7. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト 2.5Y7/4浅黄色粘土ブロック・鉄分混入
8. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト 7層下に炭の堆積あり
9. 2.5Y5/2暗灰黄色 2.5Y6/3にぶい黄色粘土ブロック・砂混入 炭少量
10. 2.5Y7/4浅黄色粘土 2.5Y5/2暗灰黄色砂混じる しまり有
11. 5Y6/1灰色砂 5Y7/2灰白色粘土ブロック混じる
12. 10YR5/2灰黄褐色シルト 砂・鉄分含
13. 7層中の砂の集中するところ
10YR7/8黄橙色砂+2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック混
14. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト 2.5Y7/4浅黄色粘土ブロック・鉄分混入

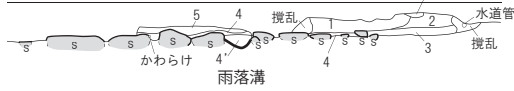
27 L=27.100m 28



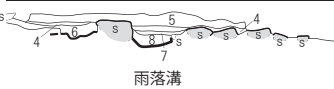
27-28

1. 5Y7/3浅黄色粘土ブロック 鉄分含
2. 5Y7/1灰白色砂 炭含
3. 2.5Y5/2暗灰黄色砂 鉄分含
4. 2.5Y5/1黄灰色砂 炭・鉄分含
5. 2.5Y4/1黄灰色粘土 2.5Y8/4淡黄色粘土ブロック・炭・コンクリート片含

25 L=27.000m



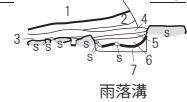
29 L=27.000m 30



25-26・29-30

1. 5G7/1明緑灰色 粘土 5Y7/1灰白色シルト・鉄分含
2. 2.5Y6/1黄灰色シルト 鉄分多く含 2.5Y7/6明黄褐色粘土ブロック混入
3. 2.5Y5/2暗灰黄色砂
4. 7.5Y4/1灰色砂 炭少し含
- 4' 5Y4/1灰色砂 5Y4/1灰色粘土ブロック混入 炭含
5. 2.5Y8/2灰白色粘土 5Y5/1灰色粘土ブロック混入
6. 7.5Y4/1灰色シルト 4層との間に炭の筋あり
7. 5Y4/1灰色砂
8. 10G6/1緑灰色砂

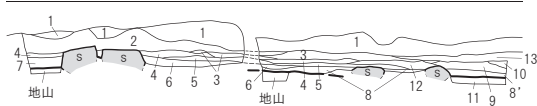
L=27.000m 33 34



33-34

1. 5Y6/2灰オリーブ色粘土ブロック 2.5Y6/3にぶい黄色砂ブロック
- 7.5YR4/2灰褐色粘土ブロック混入 鉄分 2層との間に厚さ1cm未満の炭の層が入る
2. 5Y5/1灰色粘土ブロック 5Y3/1オリーブ黒色・2.5Y6/6明黄褐色の砂が混じる
中央下から東下にかけては2.5Y6/3にぶい黄色 炭・砂が多くしめている
3. 10YR6/2灰黄褐色粘土ブロック 5Y7/1灰白色粘土ブロックなど混じる
4. 7.5Y4/1灰色砂 カーボン混入
5. 5Y5/1灰色粘土 炭含
6. 5Y4/1灰色 カーボン・小石含
7. 10G5/1緑灰色粘土 同砂含

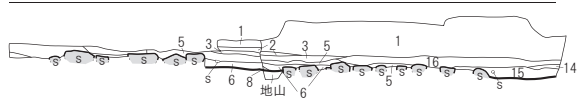
3 L=27.200m 4



3-4・9-10

1. 2.5Y7/3浅黄色粘土 しまり有 粘性少し有 2.5Y7/3浅黄色・10YR3/2
黒褐色粘土ブロック・φ1~2cmの小石含 下面に炭が筋状に入る 攪乱
 2. 7.5G5/1緑灰色シルト
 3. 10Y3/1オリーブ黒色シルト 5Y4/1灰色砂・炭含
 4. 2.5Y4/2暗灰黄色砂 5Y4/1灰色粘土ブロック少し混じる 炭含
 5. 2.5Y4/2暗灰黄色砂 2.5Y6/4にぶい黄色粘土ブロック混入 炭含
 6. 5G4/1暗オリーブ灰色砂 炭少量
 7. 5Y3/1オリーブ黒色シルト 同砂・炭含
 8. 7.5Y4/1灰色砂 やわらかい 炭少し含 6層と似る
 - 8' 2.5Y5/2暗灰黄色砂
 9. 5Y5/2灰オリーブ色シルト~砂 2.5Y6/3にぶい黄色粘土ブロック混入 鉄分含
 10. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト~砂 鉄分・炭含
 11. 5Y6/3オリーブ黄色に2.5Y5/2暗灰黄色の砂が入る 本来地山
 12. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト~砂 しまりある 5Y5/1灰色粘土混じる
 13. 2.5Y7/3浅黄色シルト 上下に10YR4/1褐灰色混じる 炭含
 14. 2.5Y5/2暗灰黄粘土
 15. 2.5Y6/2暗灰黄砂 粘性少量
 16. 2.5Y4/2暗灰黄砂 炭・鉄分少量
- 地山 5G6/1緑灰色粘土 砂含

9 L=27.200m 10



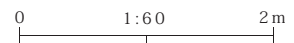
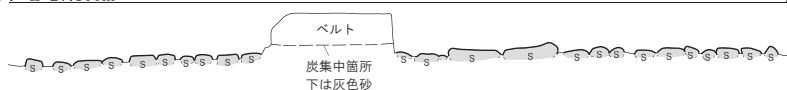
75 L=26.900m 76



65 L=27.000m 66



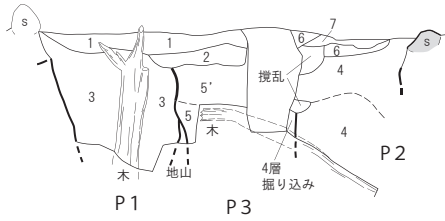
77 L=27.100m 78



第10図 東側石敷断面図

柱穴・土坑

69 L=27.100m



70

69-70

1. 10YR4/2灰黄褐色粘土 5Y6/2灰オリーブ色粘土ブロック混入 鉄分含
2. 5Y6/2灰オリーブ色粘土ブロック 10YR3/2黒褐色粘土ブロック混入
3. 2. 5GY6/1オリーブ灰色粘土ブロック 7. 5YR2/1黒色ブロック・2. 5Y3/2黒褐色の粘土ブロック・オリーブ灰砂など混入
4. 10Y6/2オリーブ灰色粘土ブロック 2. 5Y3/2黒褐色粘土ブロック 7. 5YR2/1黒色ブロック混入
2. 5Y4/2暗灰黄色砂など混入 上位は5Y6/2灰オリーブの砂が多い
5. 10Y6/2オリーブ灰色粘土ブロック 2. 5GY5/1オリーブ灰色砂多く混入 2. 5Y4/2暗灰黄色粘土ブロック混入
- 5' 5層のうちと思われるが5Y7/1灰白色など黄味がかかる
6. 2. 5Y4/1黄灰色粘土 同砂混入 5Y6/2灰オリーブ色小粘土ブロック・炭混入
7. 2. 5Y3/1黒褐色シルト 炭多く含 5Y6/2灰オリーブ色小粘土ブロック混入 攪乱

47 L=26.800m



48

47-48

1. 10YR4/2灰黄褐色シルト 10YR6/3にぶい黄橙色の粘土ブロック・炭少し混じる 河原石含
2. 5Y6/1灰色粘土 砂・炭混じる
3. 2. 5Y5/2暗灰黄色粘土 5Y6/1灰色粘土ブロック・炭混入
4. 2. 5Y6/1黄灰色砂 2. 5Y7/3浅黄色粘土ブロック・炭混入
5. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 鉄分・炭含
6. 2. 5Y5/2暗灰黄色砂 固くしまる 2. 5Y6/3にぶい黄色の粘土ブロック・炭少し混じる
7. 2. 5Y5/2暗灰黄色砂 固くしまる 2. 5Y6/3にぶい黄色の粘土ブロック・炭少し混じる 鉄分多く含
8. 2. 5Y7/2灰黄色のしまった砂 5Y5/3灰オリーブ色粘土ブロックや2. 5Y3/2黒褐色シルトが混入 炭含 柱痕跡
9. 2. 5Y5/2暗灰黄色砂 2. 5Y6/4にぶい黄色粘土ブロック混入 炭含
10. 2. 5Y5/3黄褐色シルト 砂混じる 2. 5Y6/4にぶい黄色粘土ブロック混入 鉄分・炭含
11. 10YR4/2灰黄褐色 炭含 2. 5Y6/2灰黄色粘土ブロック少し混入
12. 5Y6/3オリーブ黄色粘土 同砂や5Y5/2灰オリーブ色砂含
13. 2. 5Y5/2暗灰黄色シルト 2. 5Y7/3浅黄色粒状に含 鉄分含
14. 2. 5Y5/2暗灰黄色砂 2. 5Y7/4浅黄色粘土ブロック少量
15. 2. 5Y4/2暗灰黄色砂 2. 5Y6/2灰黄色粘土ブロック少量
16. 5Y6/2灰オリーブ色シルト 鉄分含
17. 7. 5Y6/1灰色 5Y6/2灰オリーブ色の粘土や砂の粘土ブロック筋状 鉄分・炭含
18. 2. 5Y5/2暗灰黄色シルト 5Y7/3浅黄色粘土ブロックが筋状 鉄分・炭含
19. 2. 5Y4/2暗灰黄色砂 5Y6/2灰オリーブ色粘土ブロック混入
20. 2. 5Y5/3黄褐色 5Y6/3オリーブ黄色粘土ブロック混入 炭・鉄分少量

41 L=27.000m 42

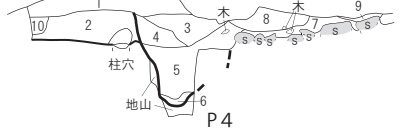


P5

41-42

1. 2. 5Y5/2暗灰黄色砂 10YR6/6明黄褐色砂混入 炭 かわらけ片・鉄分含
2. 2. 5Y5/2暗灰黄色砂 10YR6/6明黄褐色砂混入 鉄分多く含
3. 5Y6/1灰色砂 2. 5GY7/1明オリーブ灰色粘土ブロック混入 鉄分含
4. 5Y6/1灰色砂 2. 5GY6/1オリーブ灰色粘土ブロック混入 鉄分含
5. 5Y4/1灰色砂 水分含 5Y5/2灰オリーブ色粘土小ブロック少し混じる
6. 5Y5/2灰オリーブ色粘性ある砂 5Y6/3オリーブ黄色の砂・粘土ブロック多く混入する 炭少量
7. 5Y5/2灰オリーブ色砂 5Y6/3オリーブ黄色粘土小ブロック 少量
8. 5GY5/1オリーブ灰色粘土 5Y4/1灰色砂混入

67 L=27.200m

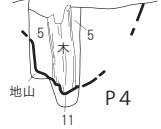


68

67-68・73-74

1. 10YR4/2灰黄褐色 2. 5Y7/3浅黄色シルトブロック混入 10YR5/6黄褐色砂含 炭少量
2. 5Y7/3浅黄色粘土 2. 5Y5/2暗灰黄色粘土や5Y7/3浅黄色砂・鉄分含
3. 10YR5/2灰黄褐色シルト 5Y7/2灰白色粘土ブロック混入 鉄分含
4. 10YR5/2灰黄褐色シルト 5Y7/2灰白色粘土ブロックや5Y6/2灰オリーブ色砂など混じる
5. 2. 5Y7/2灰黄色粘土ブロック 2. 5Y4/2暗灰黄色砂混じる
6. 2. 5Y4/1黄灰色砂 5Y6/4オリーブ黄色粘土ブロック少し混じる
7. 10YR5/3にぶい黄褐色砂 鉄分含
8. 2. 5Y4/2暗灰黄色シルト 炭多く含
9. 10YR4/1褐灰色シルト 10YR5/3にぶい黄褐色シルト混入
10. 2. 5Y6/2灰黄色砂 5Y7/4浅黄色シルトブロック混入 下に10YR4/4褐色シルト少し混じる
11. 5Y3/2オリーブ黒色砂 5Y5/2灰オリーブ色粘土混入

73 L=26.700m 74



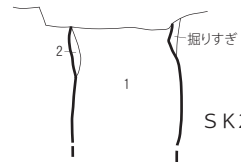
P4

71 L=27.100m 72



SK1

81 L=26.800m 82



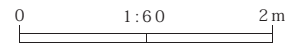
SK2

81-82

1. 2. 5Y6/2灰黄色粘土 5Y4/1灰色シルト多く混じる
7. 5YR5/6明褐色粘土も上層に混じる 炭含
2. 2. 5Y5/2暗灰黄色炭 2. 5Y6/2灰黄色ブロック混入

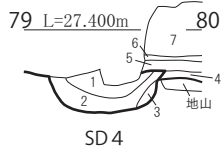
71-72

1. 5GY5/1オリーブ灰色粘土 10Y5/2オリーブ灰色の砂や粘土が粒状に入る 炭少し混じる
2. 5Y7/2灰白色粘土 上面に2. 5Y6/2灰黄色の砂堆積



第11図 P1~6・SK1・2断面図

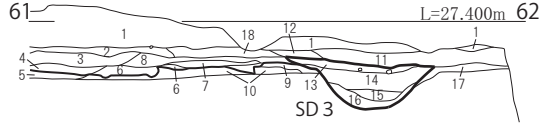
SD3・SD4・SD6



SD4

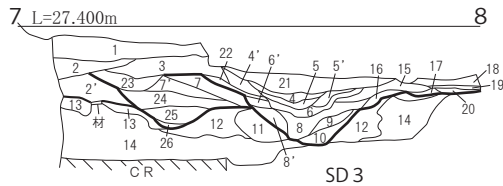
79-80

1. 2.5Y5/2暗灰黄色砂 5Y7/2灰白色粘土ブロック 多く混入
2. 5Y5/2灰オリブ色砂 5Y7/2灰白色粘土ブロック 多く混入
3. 10YR6/2灰黄褐色～10YR6/6明黄褐色の砂
4. 10YR6/2灰黄褐色～10YR6/6明黄褐色の砂 5Y7/2灰白色粘土ブロック混入
5. 5Y6/1灰色シルト～砂 炭含 2.5Y5/2暗灰黄色の粗い砂が筋状に入る
6. 2.5Y6/3にぶい黄色シルト しまりある 同砂混じる
7. 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック 同砂・10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロックなど混入する



61-62

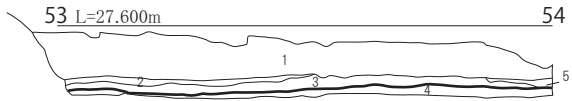
1. 5Y7/6明黄褐色粘土 同砂や10YR4/2灰黄褐色・5Y6/2灰オリブ色粘土ブロック混入
2. 2.5Y6/2灰黄色砂 5Y6/2灰オリブ色小粘土ブロック混入 北側に砂多い 鉄分含
3. 5Y5/1灰色粘土 同砂混じる
4. 2.5Y7/2灰黄色砂 5Y7/3浅黄色粘土ブロック混入
5. 2.5Y5/6黄褐色粘土 地山
6. 2.5Y4/2暗灰黄色 5Y6/4オリブ黄色の砂や粘土ブロック混入
7. 5Y5/1灰色粘土
8. 5Y5/1灰色粘土 砂多く含
9. 砂 地山
10. 粘土 地山
11. 5Y4/2灰オリブ色シルト 5Y6/3オリブ黄色粘土ブロック・同砂・炭少量
12. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土 砂混じり しまり有
13. 5Y5/1灰色砂 小石・炭含 5Y6/2灰オリブ色粘土ブロック少し混じる
14. 5Y5/2灰オリブ色 下位は粘土
15. 5Y5/2灰オリブ色 やわらかい
16. 5Y4/2灰オリブ色 10Y7/2灰白色粘土ブロック混入
17. 2.5Y4/2暗灰黄色砂 5Y6/6オリブ色粘土ブロックや炭混入
18. 12層に似る



SD3

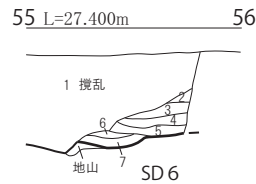
7-8

1. 盛土・整地 2.5Y6/3にぶい黄色シルト 2.5Y6/4にぶい黄色のシルトブロックや 10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロック混入
2. 2.5Y5/3黄褐色砂 2.5Y7/4浅黄色粘土ブロック混入 鉄分・炭含
- 2' 5Y5/4黄褐色粘土 同砂混入 2.5Y6/6明黄褐色粘土ブロック混入
3. 2.5Y5/2暗灰黄色砂 2.5Y6/2灰黄色粘土ブロック混入 炭含
4. 5Y4/1灰色粘土 砂多く含 炭・鉄分含
- 4' 2.5Y5/2暗灰黄色 かくしまった粘土 砂含
5. 7.5Y4/1灰色粘土 砂含 炭を多く含
- 5' 5Y4/2灰オリブ色粘土 砂混じる
6. 2.5Y6/3にぶい黄色粘土
- 6' 2.5Y6/3にぶい黄色粘土 砂含みしめる
7. 2.5Y4/1黄灰色粘土が上下の層との境に入る 上方は2.5Y6/6明黄褐色砂がみえる
- 7' 2.5Y4/1黄灰色粘土が上下の層との境に入る
8. 10Y4/1灰色粘土
- 8' 2.5Y5/2暗灰黄色粘土 上方に砂混じる
9. 2.5Y6/4にぶい黄色砂 8の粘土少し混じる
10. 2.5Y6/2灰黄色砂 5Y6/2灰オリブ色粘土ブロック混入
11. 5Y5/3灰オリブ色砂 5Y5/1灰色粘土少し混じる
12. 7.5Y6/2灰オリブ色粘土 地山
13. 2.5Y6/6明黄褐色砂
14. 5Y7/1灰白色あるいは2.5Y5/3黄褐色粘土 地山
19. 2.5Y5/3黄褐色砂 5Y6/2灰オリブ色粘土混じる
20. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土 粘性強い 砂少量
21. 5Y4/1灰色粘土 鉄分・炭少量
22. 5Y5/2灰オリブ色粘土 砂・鉄分含 しまりある
23. 5Y5/2灰オリブ色砂 5Y4/2灰オリブ色の粘土ブロック混入 鉄分・炭少量
24. 10YR5/3にぶい黄褐色 2.5Y6/1オリブ灰色の粘土ブロック混入 炭含
25. 5Y6/2灰オリブ色粘土 南側に5Y4/1暗オリブ灰色粘土や2.5Y6/3にぶい黄色の砂混じる
26. 2.5Y5/2暗灰黄色砂 しまりない



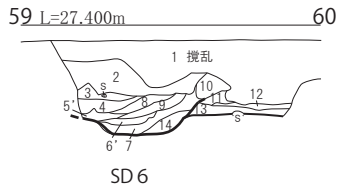
53-54

1. 2.5Y7/3浅黄色シルトブロックや粘土ブロック 10YR4/2灰黄褐色粘土ブロック 多く混入する 砂や炭化した植物の根も混入する
2. 2.5Y5/2暗灰黄色砂 5Y7/3浅黄色粘土ブロック混入 鉄分多く含
3. 2.5Y5/2暗灰黄色砂 西側は粘土主体となっている 炭化した植物の根含
4. 5Y7/3浅黄色粘土ブロック 2.5Y6/3にぶい黄色粘土や砂混じる SD4
5. 2.5Y5/2暗灰黄色砂 5Y7/2灰白色粘土ブロック



55-56

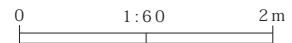
1. 粘土や礫・コンクリートなど含
2. 2.5Y3/1黒褐色粘土 2.5Y5/1黄灰色砂 鉄分含
3. 2.5Y4/1黄灰色砂 しまり有 2.5Y5/2暗灰黄色粘土ブロック少量・鉄分含 2.5Y5/2暗灰黄色粘土ブロック少量・鉄分含
4. 5Y4/1灰色砂 5Y5/2灰オリブ色粘土 鉄分少し混じる
5. 5Y5/1灰色砂 5Y4/1灰色や2.5Y8/1灰白色の砂が筋状に入る
6. 2.5Y5/1黄灰色粘土 2.5Y8/1灰白色粘土少し混じる
7. 2.5Y5/1黄灰色砂 2.5Y3/1黒褐色粘土少し混じる 5Y7/2灰白色粘土粒状で混じる



SD6

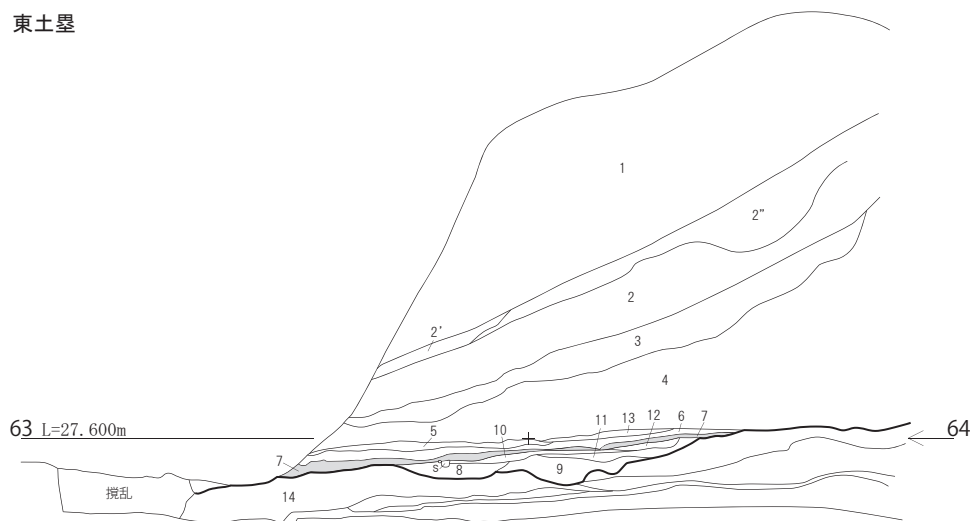
59-60

1. 粘土や礫・コンクリートなど含
2. 2.5Y3/1黒褐色粘土 2.5Y5/1黄灰色砂 鉄分含
3. 2.5Y4/1黄灰色砂 しまり有 2.5Y5/2暗灰黄色粘土ブロック少量・鉄分含
4. 5Y4/1灰色砂 5Y5/2灰オリブ色粘土 鉄分少し混じる
- 5' 5Y5/1灰色砂 5Y4/1灰色・2.5Y8/1灰白色の砂が筋状に入る 灰白少ない
- 6' 5Y5/2灰オリブ色粘土 2.5Y8/1灰白色粘土少し混じる 粘性少ない
7. 2.5Y5/1黄灰色砂 2.5Y3/1黒褐色粘土少し混じる 5Y7/2灰白色粘土粒状で混じる
8. 5Y4/2灰オリブ色粘土 2.5Y5/4黄褐色粘土小ブロックや鉄分混入
9. 2.5Y4/2暗灰黄色 2.5Y5/4黄褐色粘土小ブロック・砂・鉄分混入
10. 5Y4/1灰色粘土 11層の粘土も多く含 溝崩壊層か
11. 2.5Y7/4浅黄色粘土 整地
12. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土 砂・鉄分・炭少量
13. 2.5Y5/1黄灰色砂 下は小石敷
14. 2.5Y6/2灰黄色粘土 同砂や2.5Y6/4にぶい黄色の粘土ブロックなど混じる



第12図 SD3・4・6断面図

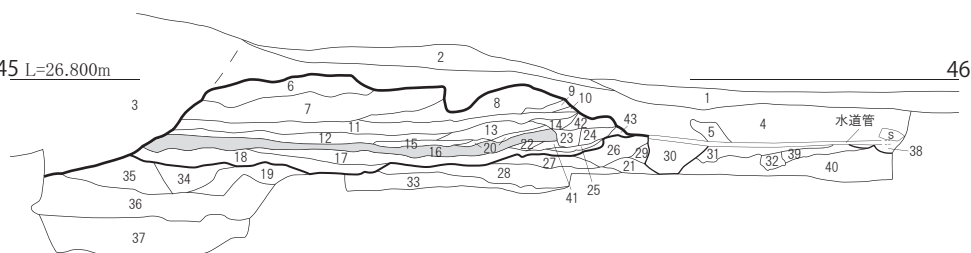
東土壘



63-64

1. 2.5Y6/3にぶい黄色・10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロック 5Y7/3浅黄色砂ブロック混じる
2. 5Y7/2灰白色シルト 同粘土ブロック混入 10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック少し混じる
- 2' 2.5Y6/2灰黄色シルト 5Y7/3浅黄色粘土ブロック混入
- 2'' 2層のブロックが小さく混入している
3. 5Y7/3浅黄色シルト 2.5Y7/6明黄褐色・10YR5/3にぶい黄褐色シルト混入
4. 5Y7/3浅黄色粘土～シルト 2.5Y7/4浅黄色・2.5Y5/2暗灰黄色粘土ブロック混入
5. 2.5Y5/3黄褐色砂 2.5Y6/6明黄褐色・2.5Y7/2灰黄色の粘土やシルトブロック混入 炭・砂含 5上～4下は2.5Y5/3黄褐色砂で炭を多く含
6. 2.5Y5/3黄褐色砂 2.5Y6/6明黄褐色・2.5Y7/2灰黄色粘土・シルトブロック多く混入
7. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト 鉄分・炭含
8. 10YR4/2暗灰黄色粘土 2.5Y6/3にぶい黄色砂ブロック混入
9. 10YR6/6明黄褐色や2.5Y7/2灰黄色の粘土ブロック 10YR5/3にぶい黄褐色・10YR4/3にぶい黄褐色粘土ブロック混入
10. 10YR6/6明黄褐色や2.5Y7/2灰黄色の粘土ブロック
11. 10YR6/6明黄褐色粘土 2.5Y7/2灰黄色粘土ブロック混入 鉄分含
12. 2.5Y6/4にぶい黄色砂 2.5Y4/2暗灰黄色含
13. 2.5Y3/1黒褐色 炭多く含 2.5Y6/4にぶい黄色の粘土ブロック混入
14. 7.5YR6/18橙色砂 地山

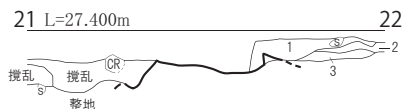
45 L=26.800m



45-46

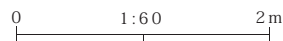
- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 碎石 2. 2.5Y3/1黒褐色 コンクリートや根など混じる 表土 3. 2.5Y7/2灰黄色粘土や10YR4/3にぶい黄褐色粘土ブロックなど混じる 攪乱 4. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土 2.5Y4/2暗灰黄色砂など含 現代盛土 5. 2.5Y3/2黒褐色シルト 鉄分 旧表土か 6. 2.5Y8/3淡黄色シルト 10YR5/3にぶい黄褐色 鉄分含 7. 5Y7/3浅黄色シルト 同砂含 下半は2.5Y4/2暗灰黄色・2.5Y6/4にぶい黄色の粘土ブロック多く混入する 8. 2.5Y6/4にぶい黄色粘土 鉄分含 崩れやすい 9. 2.5Y4/3オリブ褐色シルト 2.5Y7/3浅黄色シルトブロック混入 10. 5Y7/3浅黄色鉄分含 11. 2.5Y5/2暗灰黄色砂 5Y7/3浅黄色粘土粒状～小ブロックで混入 鉄分・炭含 12. 2.5Y4/1黄灰色シルト 炭多く含 13. 2.5Y6/3にぶい黄色シルト 2.5Y5/2暗灰黄色のシルトブロック混じる 14. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土 2.5Y6/2灰黄色粘土ブロック少し混じる 根が入る 15. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト 鉄分含 16. 2.5Y4/2暗灰黄色砂 鉄分・マンガン含 2.5Y6/2灰黄色粘土ブロック少量混じる 17. 2.5Y3/2黒褐色シルト 5Y6/4オリブ黄色や2.5Y4/3オリブ褐色粘土ブロックなどが混じる 2.5Y6/6明黄褐色の砂も含 炭少量 18. 2.5Y7/4浅黄色シルト 同砂ブロック・2.5Y5/2暗灰黄色のシルトブロック混入 19. 5Y6/2灰オリブ色粘土 2.5Y5/2暗灰黄色の砂混じる 地山 20. 5Y6/2灰オリブ色粘土 同砂混じる 21. 2.5Y6/4にぶい黄色粘土 | <ol style="list-style-type: none"> 22. 2.5Y6/3にぶい黄色砂 しまりある 23. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック混入 根が入る 24. 5Y6/2灰オリブ色シルト 同粘土ブロック含 25. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土 2.5Y7/3浅黄色粘土ブロック混入 26. 2.5Y5/3黄褐色シルト 地山 27. 5Y6/2灰オリブ色粘土 5Y5/1灰色粘土粒状に少し混じる 地山 28. 5Y7/2灰白色粘土 2.5Y6/3にぶい黄色シルトブロック多く混入 29. 2.5Y6/3にぶい黄色粘土 30. 2.5Y3/2黒褐色 5Y5/2灰オリブ色・炭混じる 攪乱掘り込み 31. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト サラサラしている 炭少量 32. 2.5Y4/2暗灰黄色 鉄分含 サラサラしている 33. 5Y7/1灰白色粘土 鉄分・カーボン含 34. 5Y6/1灰色粘土 2.5Y7/6明黄褐色や2.5Y6/2灰黄色の粘土ブロック混じる 35. 5Y7/2灰白色粘土 同砂・鉄分含 36. 5Y7/2灰白色砂 37. 5Y6/1灰色粘土 38. 攪乱 39. 2.5Y6/3にぶい黄色 サラサラしている 40. 2.5Y6/3にぶい黄色粘土 鉄分含 地山 41. 5Y7/3浅黄色粘土 同砂混じる 42. 2.5Y4/2暗灰黄シルト 5Y7/2灰白 粘土ブロック少し混じる 炭含 43. 10YR4/2灰黄褐シルト 炭少し混じる |
|--|--|

21 L=27.400m



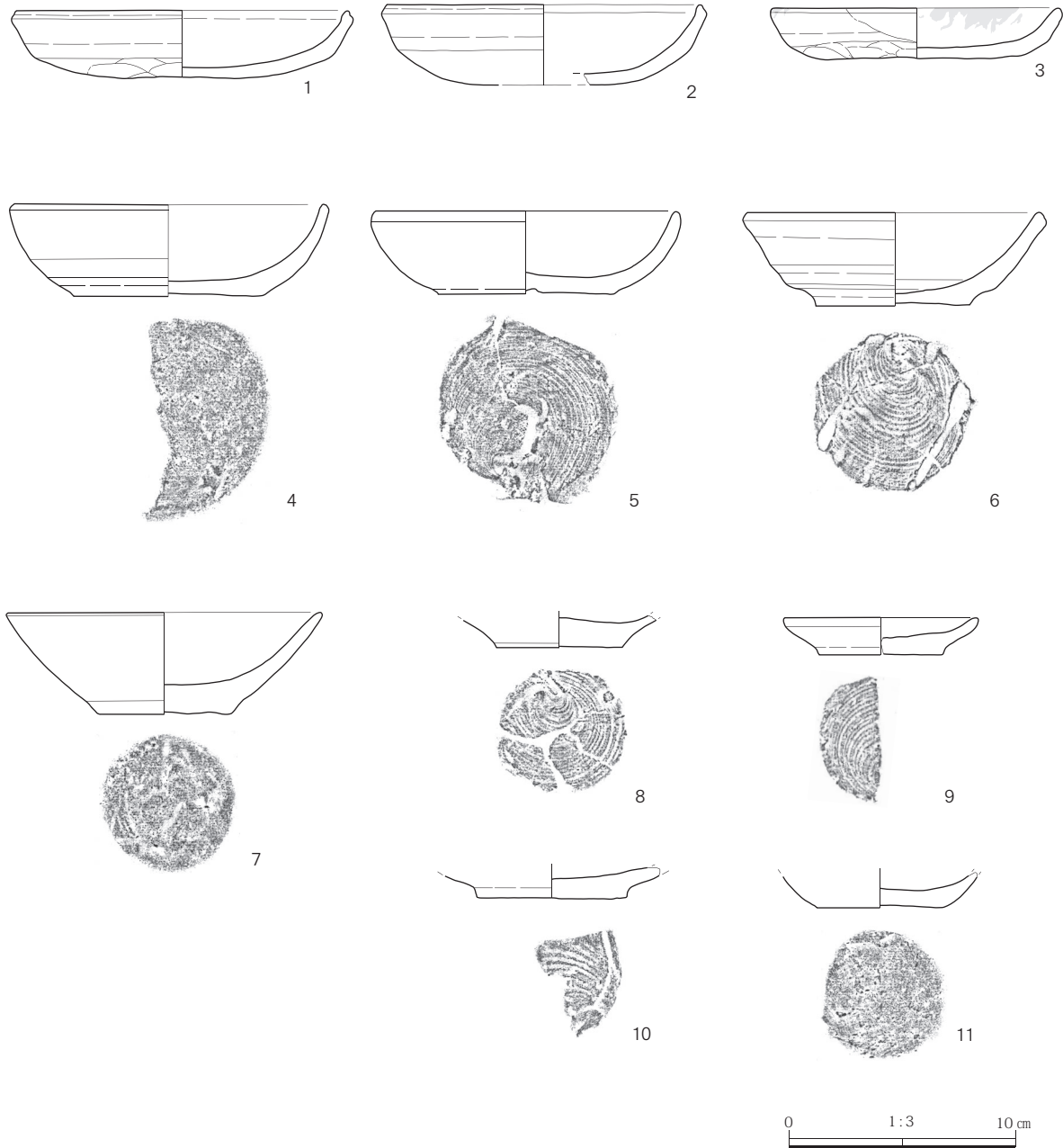
21-22

1. 2.5Y6/2灰黄色粘土 同砂や 2.5Y8/4淡黄色粘土 鉄分含 攪乱と思われる
2. 2.5Y5/1黄灰色砂 10Y5/1灰色粘土ブロック混入
3. 5Y6/2灰オリブ色砂 5Y5/1オリブ灰色砂(地山)・鉄分など混じる



第13図 東側土壘断面図

かわらけ



第14図 出土遺物1（かわらけ）

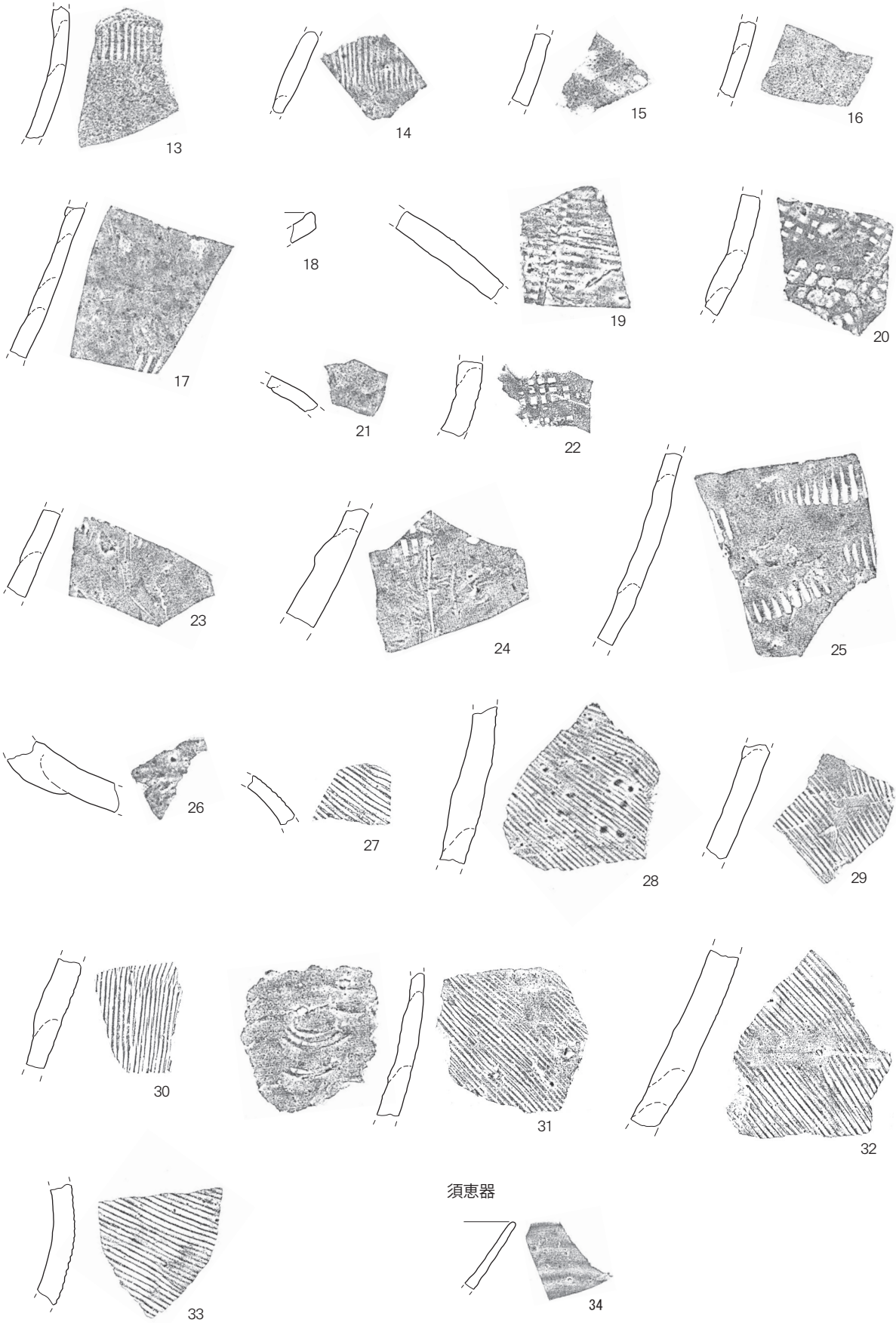
板は横たわった状態で出土した。長さ1.05mで幅は17cmである。

種子 2号溝から桃や瓜など種子が出土している。

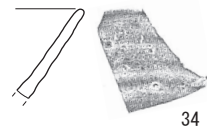
鉄滓 北東側灰色砂層からまとまって出土している。比較的形の分かる椀形（炉底）滓（No.148～150）を中心に掲載した。無量光院造営時に周辺に工房等があったことが示唆される遺物である。

銭貨 攪乱中から大正8年鑄造の5厘青銅貨（No.152）と、明治13年鑄造の半銭銅貨（No.153）が出土しており、掲載した。

国産陶器



須恵器

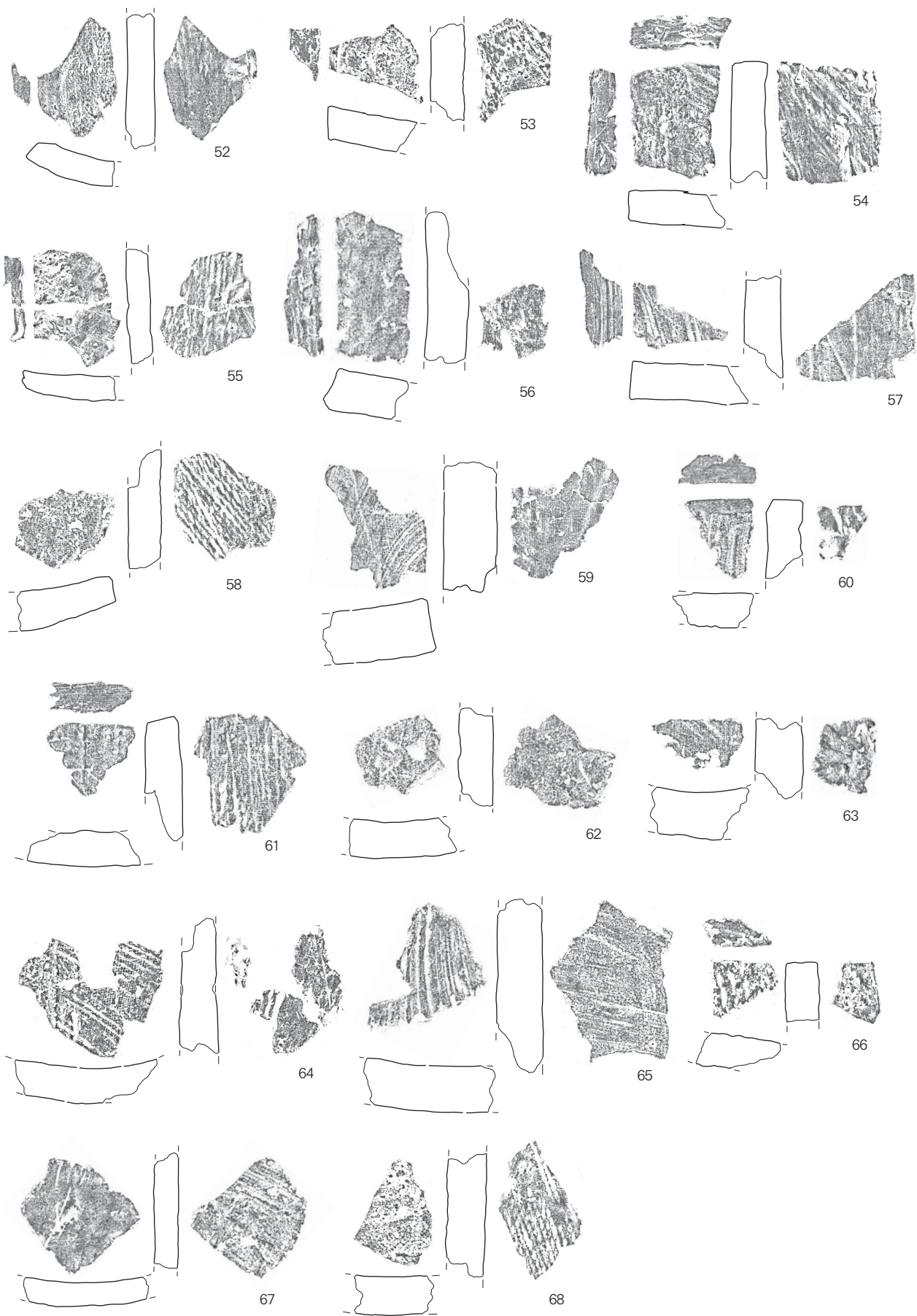


0 1:3 10 cm

第15図 出土遺物 2 (国産陶器)

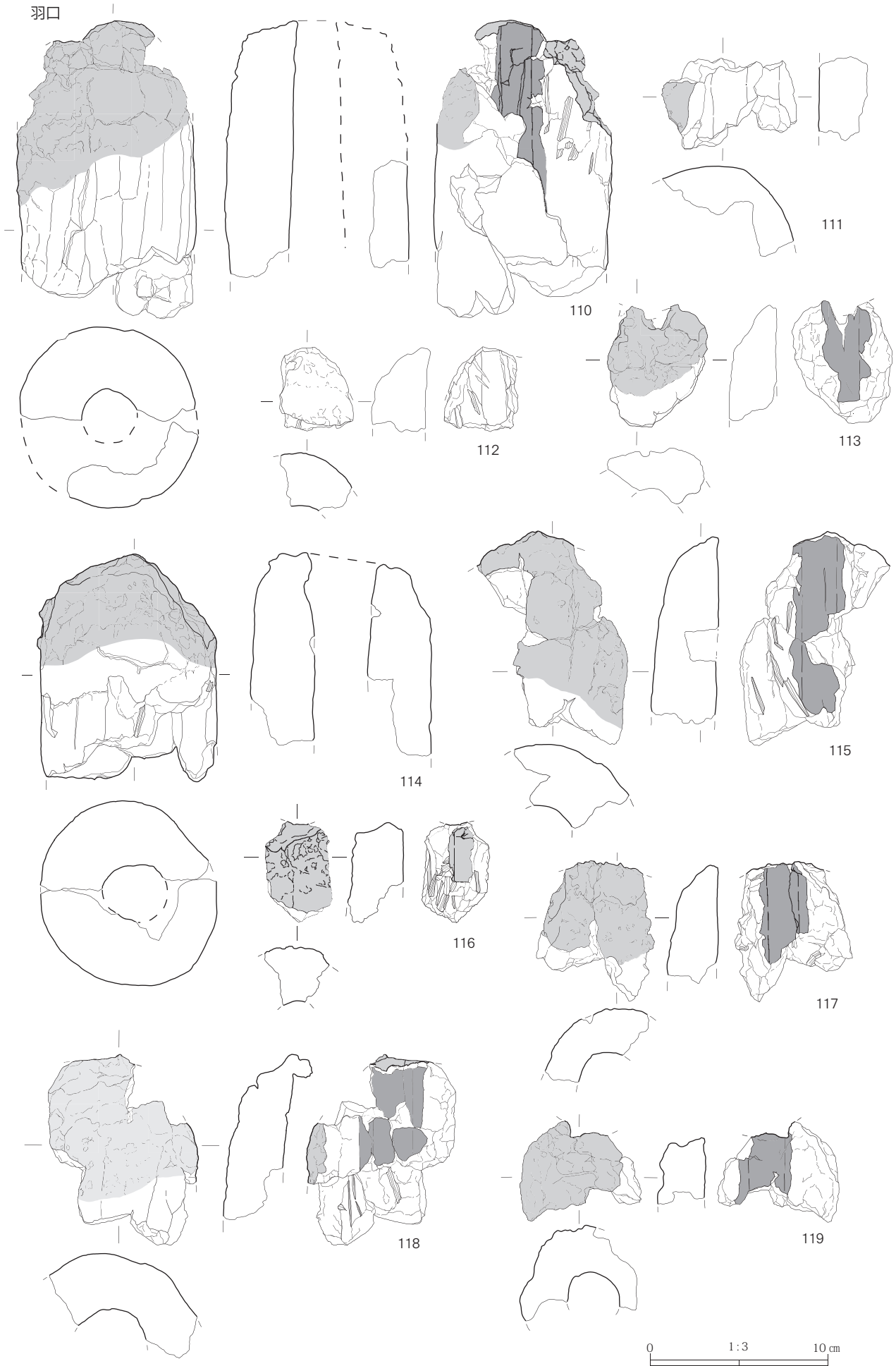


第16図 出土遺物3 (瓦1)



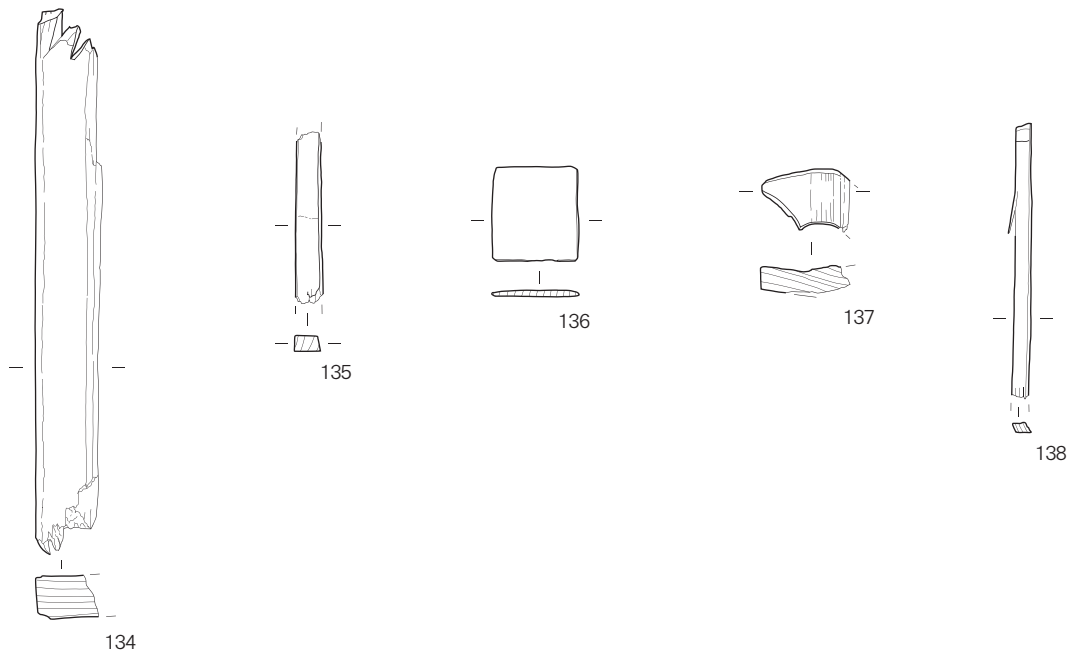
第17図 出土遺物4 (瓦2)

羽口

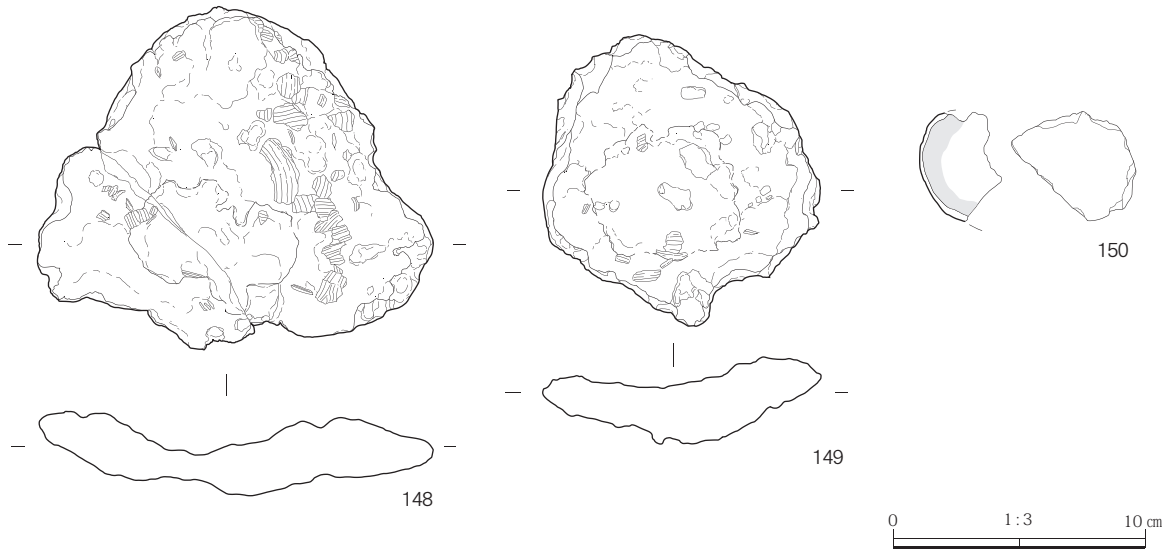


第18図 出土遺物5 (羽口)

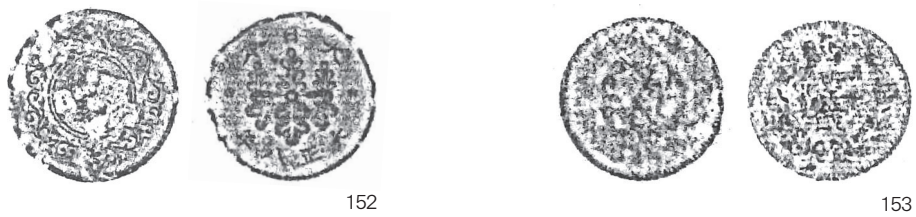
木製品



炉底滓

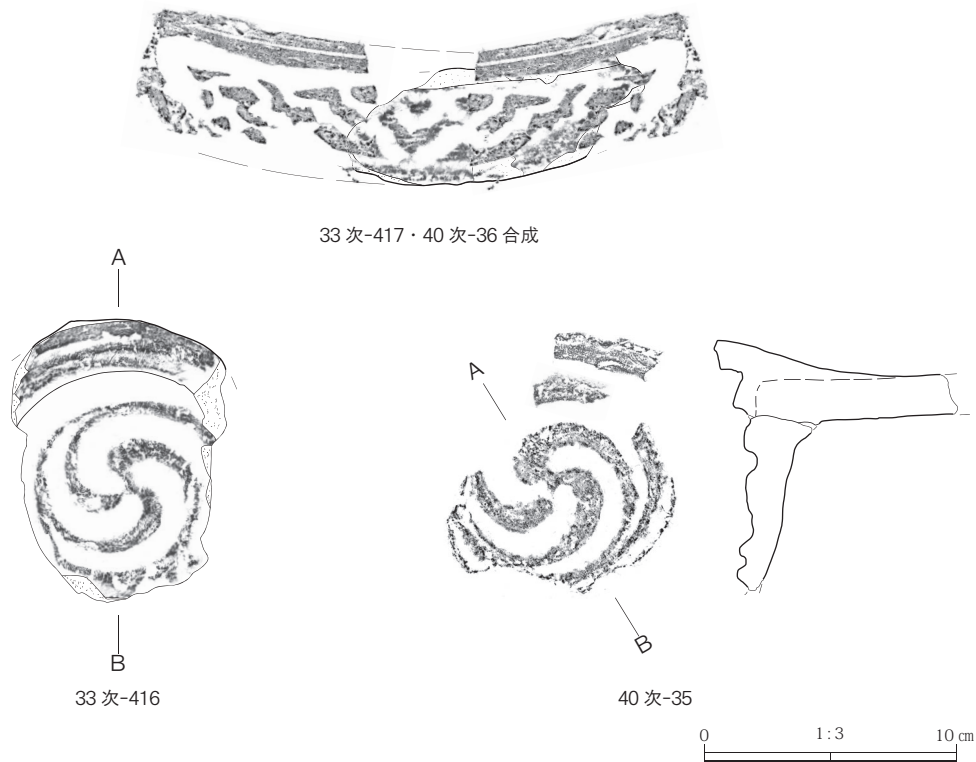


銭



銭：原寸

第19図 出土遺物6（木製品、炉底滓、銭）



第20図 33次・40次同範復元文様

第2表 かわらけ観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	法 量(cm)			残存率 (%)	備 考	登録No
					口径	底径	器高			
1	14	7	2号溝 北トレンチ中層灰色土主体	手づくね 大	15.0	—	3.0	30	圧痕 スノコ痕有 反転実測	70
2	14	7	2号溝 北トレンチ中層灰色土主体	手づくね 大	14.3	—	(3.5)	30	反転実測	71
3	14	7	2号溝 北トレンチ中層灰色土主体	手づくね 大	12.2~12.9	—	2.2~2.6	100	圧痕 スノコ痕有 ナデ上げ 内外面口縁部煤付着	72
4	14	7	重機対応 石敷上の灰色(北側)	ロクロ 大	14.1	8.8	4.0	30	摩滅 反転実測	4-1
5	14	7	2号溝 南トレンチ下層灰色土主体	ロクロ 大	13.7	7.8	3.7	50	反転実測	69
6	14	7	杭3東 石敷検出作業	ロクロ 大	13.4	6.9	3.9~4.2	80		126
7	14	7	南西側南北トレンチ 3号溝	ロクロ 大	14.0	6.0	4.5	70	摩滅	320
8	14	7	杭8西の東西トレンチ 褐灰ブロック層	ロクロ 小	—	5.5	—	60	底部のみ 反転実測	121
9	14	7	東土塁裾中央トレンチ 攪乱一括	ロクロ 小	8.6	5.5	1.6	30	反転実測	225-10
10	14	7	南西 南北トレンチ整地層	ロクロ 小	—	6.6	—	20	底部のみ 反転実測	278
11	14	7	南西端 東西トレンチ 4号溝	ロクロ 小か	—	5.5	—	60	底部のみ 摩滅 反転実測	329

第3表 中国産磁器観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備 考	登録No
12	—	7	2号溝 下層灰色土主体	白磁	壺	不明	12C	Ⅲ系	87-2

第4表 国産陶器観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備 考	登録No
13	15	7	重機(調査区北西)	常滑	甕	胴	12C	外面釉 押印有	2
14	15	7	南西隅 攪乱	常滑	甕	胴	12C	押印有	17-2
15	15	7	西側中央 東西トレンチ灰色層	常滑	甕	胴	12C		35
16	15	7	西側中央 東西トレンチ灰色層	常滑	甕	胴	12C		36
17	15	7	北側拡張 攪乱一括	常滑	甕	胴	12C	押印有	155-3
18	15	7	北側拡張 攪乱一括	渥美	甕	口唇部	12C	内面釉有	155-19
19	15	7	杭2東 2号溝上層炭合層	渥美	甕	肩か	12C	外面釉 押印有	48
20	15	7	杭2東 2号溝上層炭合層	渥美	甕	胴	12C	押印有 内外面煤付着 被熱か	50
21	15	7	2号溝 南トレンチ炭ブロック層中心	渥美	甕	肩	12C	外面釉有	116-2
22	15	7	調査区道路側 黒色土	渥美	甕	胴	12C		272
23	15	7	杭3東 雨落溝より東の石敷面	渥美	甕	胴	12C	内外面煤付着 被熱か	210

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
24	15	7	杭7北東上面 粘土整地	渥美	甕	胴	12C	押印有	216
25	15	7	東土塁	渥美	甕	胴	12C	押印有 内外面煤付着	403-2
26	15	7	杭2東 2号溝上層	須恵器系	甕	頸	12C	外面釉 押印有	49
27	15	7	北側 攪乱	須恵器系	甕	肩	12C	外面釉 押印有	296
28	15	7	杭2東 2号溝上層炭層	須恵器系	甕	胴	12C	外面に釉 押印有	51
29	15	7	杭9北 2層粘土層	須恵器系	甕	胴	12C	押印有	120
30	15	7	北側拡張部 攪乱一括	須恵器系	甕	胴	12C	押印有	155-17
31	15	7	南拡張部 攪乱	須恵器系	甕	胴	12C	外面釉有 内外面押印有	246-3
32	15	7	杭9北 黄粘土整地層	須恵器系	甕	胴	12C	押印有	282
33	15	7	2号溝 西攪乱	須恵器系	甕	胴	12C		237

第5表 須恵器観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
34	15	7	清掃	坏	口縁～体	平安			11-2

第6表 瓦観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	法 量(cm)			重量 (g)	備考	登録No
					長さ	幅	厚さ			
35	16	8	杭2・3間 攪乱一括	軒丸瓦 (三巴文)	10.5	7.5	2.7	217.8	石敷出土と接合	18
36	16	8	杭9西 石敷上	軒平瓦 (唐草文)	8.5	10.0	5.3	458.5		125
37	16	8	杭9西 石敷上	軒平瓦 (唐草文)	6.2	5.0	3.1	80.8	36と同範と思われる	136-2
38	16	8	雨落溝 東側石敷	軒丸瓦	3.4	3.6	1.7	35.4		340
39	16	8	北側拡張部 攪乱	丸瓦	3.7	3.7	1.8	36.9		265-2
40	16	8	中央石敷	丸瓦	2.9	2.6	2.0	19.7	2片のうちの1片	348-1
41	16	8	杭3南東 石敷	丸瓦	7.2	5.0	1.7	81.7	玉縁	96
42	16	8	3号溝	丸瓦	7.7	3.5	1.6	75.8	玉縁なし 釘穴あり	321
43	16	8	西側中央 東西トレンチ灰色層	丸瓦	4.7	4.0	1.7	61.7		33
44	16	8	北側拡張 2号溝 炭層	丸瓦	7.4	4.6	2.0	107.8		220
45	16	8	杭3東 石敷面	丸瓦か	8.7	3.5	2.0	109.1		200
46	16	8	中央石敷	丸瓦	2.3	3.6	2.0	36.1		344
47	16	8	雨落溝 東側石敷	丸瓦か	3.4	1.7	1.5	16.9		335
48	16	8	杭3ベルト 下層 (石敷上)	丸瓦	3.9	6.3	2.4	58.4		245-2
49	16	8	杭3東 石敷面	丸瓦	4.1	3.5	2.2	35.1		178
50	16	8	杭9東側 北トレンチ	丸瓦	5.5	4.5	1.6	44.1		267-2
51	16	8	雨落溝 東側石敷	丸瓦	3.0	5.0	2.1	44.9		336
52	17	8	壁切り	平瓦	6.8	4.8	1.5	56.1		5-1
53	17	8	西側中央 東西トレンチブロック層 (整地)	平瓦	5.2	4.9	1.8	52.3		78-1
54	17	8	2号溝 北トレンチ中位灰色層	平瓦	6.4	5.7	1.9	104.6		123
55	17	8	杭3東 石敷面 石の間	平瓦	6.2	5.1	1.4	46.9		189
56	17	8	杭8北 石敷の西	平瓦	7.9	4.6	2.2	99.6		250
57	17	8	杭3東 石敷面 石の間	平瓦	5.5	6.4	2.0	72.2		191
58	17	8	杭3東 (石敷上) 攪乱	平瓦	6.7	6.0	2.8	80.1		175-1
59	17	8	杭3東 石敷面	平瓦	7.5	6.1	3.0	140.0		177
60	17	8	西側中央 東西トレンチブロック層 (整地)	平瓦	4.3	4.3	1.9	36.1		61
61	17	8	南西端 東西トレンチ 4号溝	平瓦	6.8	6.3	1.9	75.6		327
62	17	8	西側中央 東西トレンチ灰色層	平瓦	4.8	5.9	2.0	77.9		38
63	17	8	杭3南 板検出作業	平瓦	4.0	5.3	2.5	60.2		68-2
64	17	8	西側中央 東西トレンチ灰色層	平瓦	7.4	7.7	2.1	97.5		43-1
65	17	8	杭8西 灰色層	平瓦	9.4	7.3	2.5	193.7		148
66	17	8	杭3東 石敷面	平瓦	3.2	4.5	1.9	27.8		201
67	17	8	西側中央 東西トレンチ南壁 断面13-14	平瓦	6.2	6.7	1.4	116.9		188
68	17	8	杭3東 石敷灰色層	平瓦	6.6	4.2	2.1	71.7		213-1
69	-	-	杭3・4間 石敷上灰色土層	不明	2.7	1.9	-	7.3		21-3
70	-	-	杭3・4間 石敷上灰色土層	不明	2.5	2.7	-	7.1		21-4
71	-	-	杭3・4間 石敷上灰色土層	不明	3.0	1.5	-	3.4		21-9
72	-	-	杭8北 石敷上	不明	3.5	2.5	1.3	11.5		25-2
73	-	-	杭3南 板検出作業	不明	1.9	2.5	-	7.1		68-6
74	-	-	杭3南 板検出作業	不明	2.9	2.0	-	8.4		68-7
75	-	-	杭3南東 石敷	平瓦	5.5	3.7	1.6	43.4		98
76	-	-	杭8北西 石敷検出作業	平瓦か	3.0	2.6	-	10.1		119-2
77	-	-	東中央 東西トレンチ 断面9-10 5層	不明	2.1	2.0	1.0	5.0		129-2
78	-	-	杭9西 石敷上	不明	3.2	3.2	-	7.3		136-3
79	-	-	杭3東 (石敷上) 粘土層攪乱	不明	1.6~1.8	1.3~1.9	-	6.2	2片	175-3
80	-	-	杭3北東 攪乱一括	不明	3.0	2.2	-	5.7		185-3
81	-	-	石敷検出面	不明	1.4~3.0	1.2~3.5	-	11.4	3片	186-2
82	-	-	杭3東 石敷面 石の間	平瓦	6.1	4.0	1.9	45.9		190
83	-	-	北拡張部 石敷周辺	不明	1.7	1.7	-	2.8		196-1
84	-	-	北拡張部 攪乱	不明	2.3	3.0	1.3	8.2		197-1

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	法 量(cm)			重量 (g)	備 考	登録No
					長さ	幅	厚さ			
85	-	-	杭3東 石敷面	平瓦	7.4	3.9	-	32.8		198
86	-	-	杭3東 石敷面	平瓦	7.4	5.5	2.0	84.9		199
87	-	-	杭3ベルト 下層	平瓦	2.5	5.2	2.2	28.5		234-2
88	-	-	杭3ベルト 下層 (石敷上)	不明	3.6	3.0	-	16.6		245-4
89	-	-	南拡張部 攪乱	平瓦	4.5	4.5	2.0	41.8		246-4
90	-	-	2号溝 北拡張部底 (7層)	平瓦	4.5	3.7	1.5	21.4		253
91	-	-	北側 攪乱	平瓦	6.7	5.1	2.2	66.6		257
92	-	-	杭9東 北トレンチ	丸瓦	6.5	5.0	-	65.6		267-4
93	-	-	出土位置不明	不明	3.1	3.5	1.5	15.9		275-2
94	-	-	南西 南北トレンチ整地下層	平瓦	4.3	6.5	2.0	58.4		277-1
95	-	-	杭8北の石敷中	平瓦	3.0	4.5	2.0	33.5		284
96	-	-	南西端 東西トレンチ 4号溝	不明	4.5	2.8	-	9.5		324-1
97	-	-	南西端 東西トレンチ 整地	平瓦	2.7	5.3	1.7	34.0		328
98	-	-	南西端 東西トレンチ 4号溝	不明	3.8	2.3	-	10.1		330
99	-	-	雨落溝 東側石敷	不明	3.5	2.4	-	10.4		337
100	-	-	雨落溝 東側石敷	平瓦	3.4	3.0	2.5	29.2		338
101	-	-	中央石敷	不明	2.9	3.6	1.8	20.2		341
102	-	-	中央石敷	平瓦	3.2	4.2	1.7	24.6		342
103	-	-	中央石敷	平瓦	3.6	3.5	2.2	33.2		343
104	-	-	中央石敷	丸瓦	4.2	4.0	2.4	34.3		345
105	-	-	中央石敷	不明	4.5	3.0	2.3	36.8		346
106	-	-	中央石敷	平瓦	2.9	3.5	1.9	27.2		347
107	-	-	中央石敷	不明	2.6	4.0	2.7	22.4	2片のうちの1片	348-2
108	-	-	中央石敷	平瓦	5.1	5.1	2.3	59.7		349
109	-	-	南西端 東西トレンチ 4号溝	不明	6.7	4.0	1.0	29.4		354-1

第7表 羽口観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	法 量(cm)			重量 (g)	備 考	登録No
				長さ	幅	厚さ			
110	18	9	杭3東 ベルト部分 炭集中か所	15.7	10.0	3.7	959.9	103、112、145、163と接合	143
111	18	9	杭3東 炭の層	5.1	7.6	2.7	80.0	145-6と接合	163-6
112	18	9	北西側 石敷検出作業	4.8	4.1	3.0	57.4		103-7
113	18	9	北西側 石敷検出作業	7.0	5.7	2.7	87.2		103-6
114	18	9	北東部 粘土ブロック層下	13.0	10.0	3.7	912.3	158-1と接合	157
115	18	9	杭3東 ベルト部分 炭集中か所	12.1	8.5	3.7	232.3	170と接合	146
116	18	9	杭3東 石敷灰色直上	5.7	3.8	3.1	52.1		171
117	18	9	杭3東 ベルト部分 炭集中か所	6.8	6.7	2.8	107.6	145-5と接合	144-1
118	18	9	杭3東 ベルト部分 炭集中か所	10.9	8.5	3.3	244.2	103-12~103-15と接合	147
119	18	9	北側拡張 炭の層	5.7	6.9	2.7	93.6		154-5
120	-	-	調査区北西側	7.1	6.0	2.0	82.3		103-8
121	-	-	調査区北西側	9.7	6.5	2.5	110.5		103-9
122	-	-	調査区北西側	5.2	4.4	1.6	66.9	滓付着	103-10
123	-	-	杭3東 ベルト部分 炭集中か所	9.5	4.0	2.1	60.8		145-3
124	-	-	北側拡張 攪乱一括	7.2	4.2	2.4	57.0		155-20
125	-	-	調査区北西側	1.5~6.2	1.0~6.0	0.6~2.2	188.7	10片	103-2
126	-	-	杭4西 石敷検出作業 1・2層間灰色層	2.0~2.5	2.0~3.2	1.0~1.6	14.1	2片	112-1
127	-	-	杭3東 ベルト部分 炭集中か所	3.7	4.5	1.1	15.6		145-1
128	-	-	北側拡張 炭の層	3.2	5.0	2.0	30.4		154-1
129	-	-	北側拡張 攪乱一括	2.6~5.2	2.0~3.7	1.2~1.8	84.0	6片	155-5
130	-	-	杭3東ベルト 炭の層	5.5	5.0	2.0	45.8		163-2
131	-	-	杭3東ベルト 粘土層	4.4	2.7	2.5	22.3		168-2

第8表 土壁観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	法 量(cm)			重量 (g)	備 考	登録No
				長さ	幅	厚さ			
132	-	9	2号溝 炭合ブロック層	1.1~2.5	0.7~1.5	0.6~1.0	19.1	スサ痕有 14点	88-2
133	-	9	杭3西 東西トレンチ粘土ブロック~青灰層	1.7~4.0	1.2~3.1	0.9~2.1	20.4	スサ痕有 4点	40-2

第9表 木製品観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類状態	法 量(cm)			備 考	登録No
					長さ	幅	厚さ		
134	19	9	P3 下層	角棒状	(21.7)	(2.7)	1.7	刻みあり	308
135	19	9	2号溝 北側拡張 北側炭層上層	角棒状	(6.8)	1.1	0.6		222-7
136	19	9	2号溝 北側拡張 北側炭層上層	板	3.8	3.5	0.2	薄い	222-8
137	19	9	P3 下層	扇型部材	(2.5)	(3.5)	1.0		310-3
138	19	9	P3 下層	角棒状	(10.9)	0.7	0.4	先端面取り	310-4

第10表 種子観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	大きさ(cm)	備考	登録No
139	—	9	2号溝 底	瓜 不明	瓜0.6~0.7 不明0.3~1.0	瓜2個 不明3個	228-4
140	—	9	2号溝 北側拡張	桃 瓜 不明	桃2.5 瓜0.7 不明1.0	桃1個 瓜1/2個 不明1個	221-3
141	—	—	杭2東 2号溝上層炭層	桃	2.0	桃1/4個	56-3
142	—	—	2号溝 下層灰色土主体	桃	2.0	桃1個	74
143	—	—	2号溝 上層粘土層	不明	1.0	不明細片3個(割れている)	101-3
144	—	—	杭3東ベルト 炭の層	桃	2.4	桃1個	163-3
145	—	—	2号溝 底	桃	2.6	桃1個	228-3
146	—	—	2号溝 北側上層	桃	2.0	桃1/2個	243-3
147	—	—	2号溝 北側下層	桃	1.1	桃1/2個 細片2個(割れている)	244-2

第11表 鉄滓観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	大きさ(cm)	重量(g)	磁着	備考	登録No
148	19	9	杭4西 石敷検出作業 1・2層間灰色土	13.7×15.7	502.0	有	炉底滓	113
149	19	9	杭3東ベルト 粘土層	11.6×11.0	362.6	有	炉底滓	166
150	19	9	杭3南東 石敷	4.3×5.0×2.7	70.4	有	炉底滓 被熱により変色	24-2
151	—	9	調査区北西側	13.0×7.8	485.6	有		103-4

第12表 銭貨観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	大きさ(cm)	重量(g)	鑄造年代	備考	登録No
152	19	9	調査区西側 攪乱等	5厘青銅貨	2.3	3.5	大正8年		22-5
153	19	9	調査区北側 黄粘土攪乱層	半銭銅貨	2.2	2.8	明治13年		302-1

IV まとめ

今回の調査では、整地層、築地塀、石敷、土坑2基、溝跡6条、柱穴19個を確認した。以下遺構毎に記述しまとめに代えたい。

築地塀と石敷 無量光院造営時の整地層下から、12世紀の石敷と築地塀を確認した。

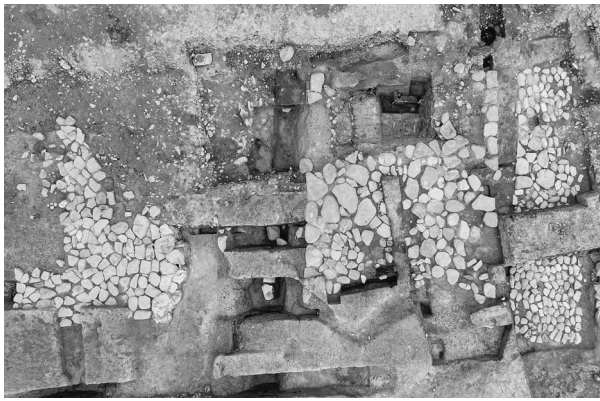
築地塀は南北方向に延びており、検出長は8.8mを測る。北側に位置する石敷は重複していない。また、石敷の北側にも築地塀の続きがあることを確認している。全体的に崩落・崩されているため残存状況は不良だが、基底部の幅は1.58m、高さは65cmを測り、明黄褐色粘土と褐色土が版築状に積まれ、下層30cmは灰白の粘土ブロックとにぶい黄褐色が混入していた。

石敷は東西方向12.4m、南北方向6.07mを測る。2条の溝で3つに区画され、一番東側では径12~20cm、中央では30~60cm、西側では15~35cmの石が敷かれていた。石敷は平坦ではなく西から東に向かうにつれて低くなり、高低差は40cm程を測る。石の配列は端の見切り石の縁は揃えているものの、内部は規則的に配置している様子は無い。ただし、2号溝に接するところは縁を揃えており、同様に東側の溝も両側の縁を揃えており、石敷きと両者の溝は同時代のものである可能性が高い。特に後者は幅が35~40cmで築地塀と同方向かつ、東端から約1m離れて同方向に延びていることから、雨落溝の可能性もある。石敷の方向は北から東へ13~15度振れており、無量光院跡の軸線(東へ8度)とは異なっている。

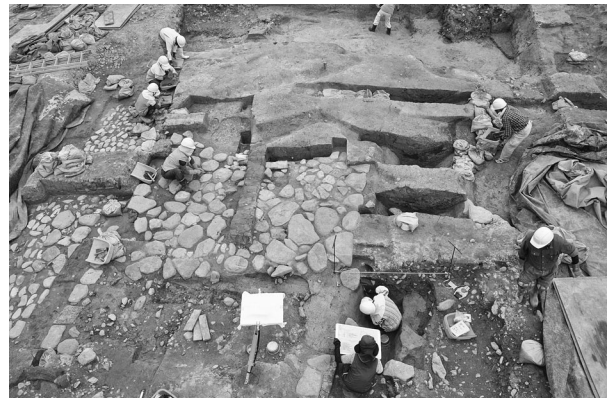
確認した石敷と築地塀は一連のもので、無量光院跡以前にあった重要施設を囲む塀とその入口の通路と考えられ、築地塀が途切れる場所に位置するP1~6は築地塀に伴う門である可能性が考えられる。門であった場合P3・6を支柱穴、P1・2、P4・5が添柱もしくは貝形柱ではないかと考えられる。支柱穴間の距離は3.6mを測る。築地塀・石敷・門跡の軸線はN15°Eを測り、全体的に無量光院造営時の整地層に覆われていたことから、無量光院跡以前の遺構と考えられる。築地塀に区画された施設の性格・時期変遷については次年度以降の調査で確認する予定である。

写真図版





石敷（南から）



作業風景（北から）



検出状況（北から）



断面33-34（北から）



断面3-4（東から）



断面29-30（南から）



断面9-10（南から）



P 4 断面73-74（南から）

写真図版1 石敷・柱穴（1）



P 3 検出状況（南から）



P 1 断面69-70（南から）



P 1~3（東から）



P 2（南から）



P 4~6 検出状況（北から）



P 2・3（北西から）



P 5 検出状況（北から）



P 7（東から）

写真図版 2 石敷・柱穴（2）



築地塀と石敷（北から）



築地塀断面51-52①（北から）



築地塀断面51-52②（北から）



調査区南側（南東から）



築地跡検出状況（東から）

写真図版3 築地塀



築地塀断面83-84①（北から）



築地塀断面83-84②（北から）



SD 5 断面13-14（南東から）



断面53-54（南から）



東側土塁断面63-64（北から）



東側土塁断面45-46①（南から）



東側土塁工事立会（東から）



東側土塁断面45-46②（南から）

写真図版4 築地塀・土塁



SD 1・2 断面11-12 (南から)



SD 1 断面35-36 (北から)



SD 2 検出状況 (南から)



SD 2 検出状況 (北から)



SD 2 北側 (南から)



SD 2 断面35-36 (北から)



SD 2 断面49-50 (北から)



SD 2 断面43-44 (南から)

写真図版5 溝



S D 2 遺物出土状況（南から）



S D 3 遺物出土状況（西から）



S D 3 断面7-8（東から）



S D 3 断面61-62（東から）



S D 4 断面79-80（東から）



S D 6 断面59-60（北から）

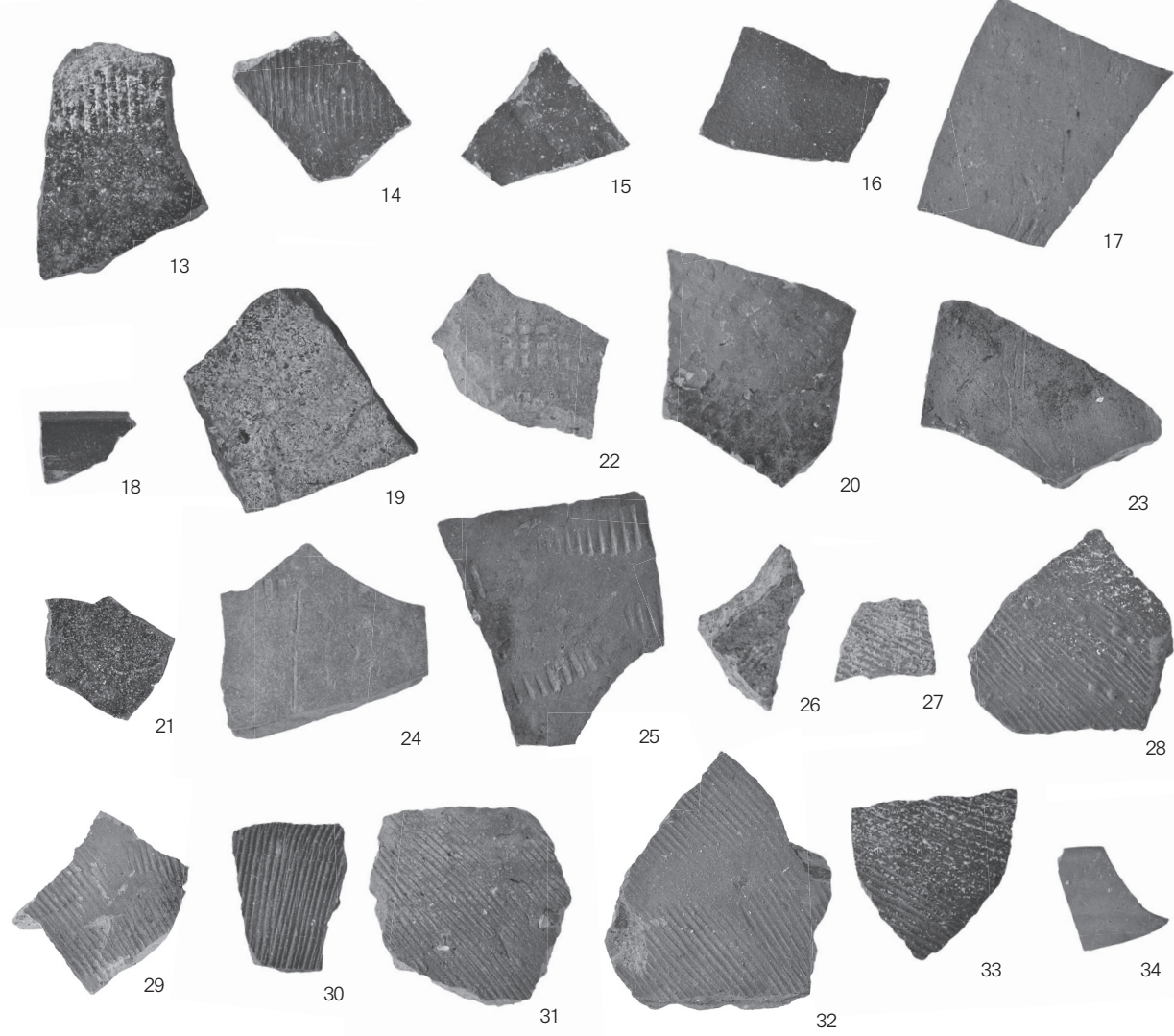
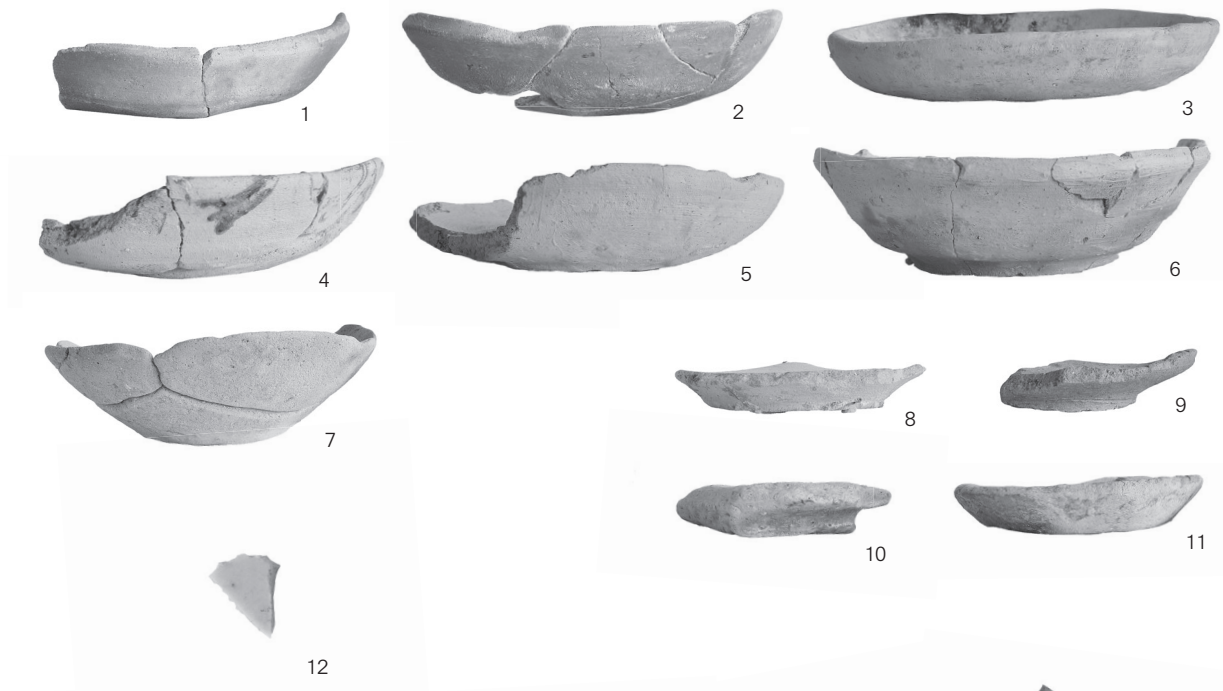


S K 1 断面71-72（南から）

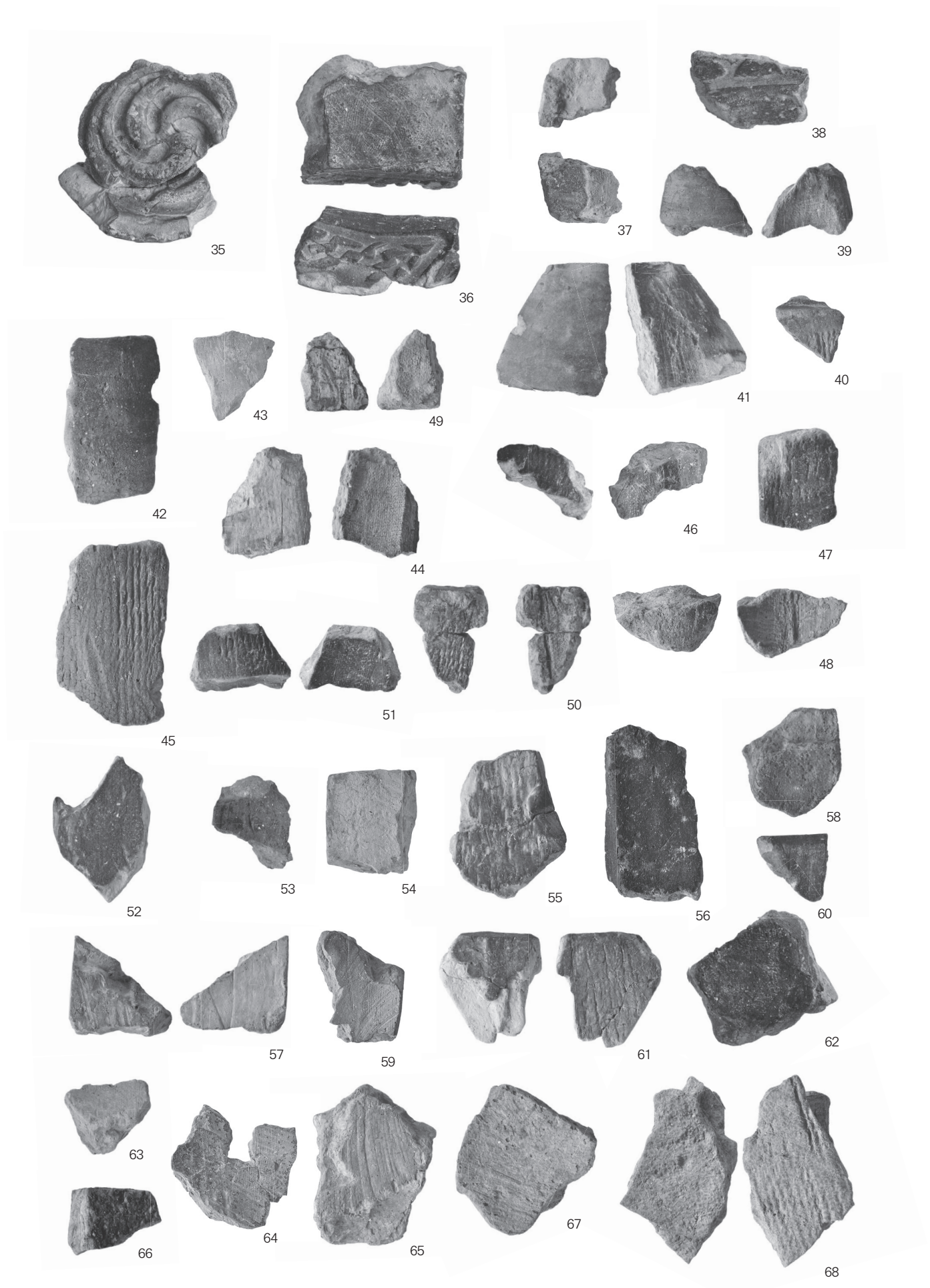


S K 2 断面81-82（北から）

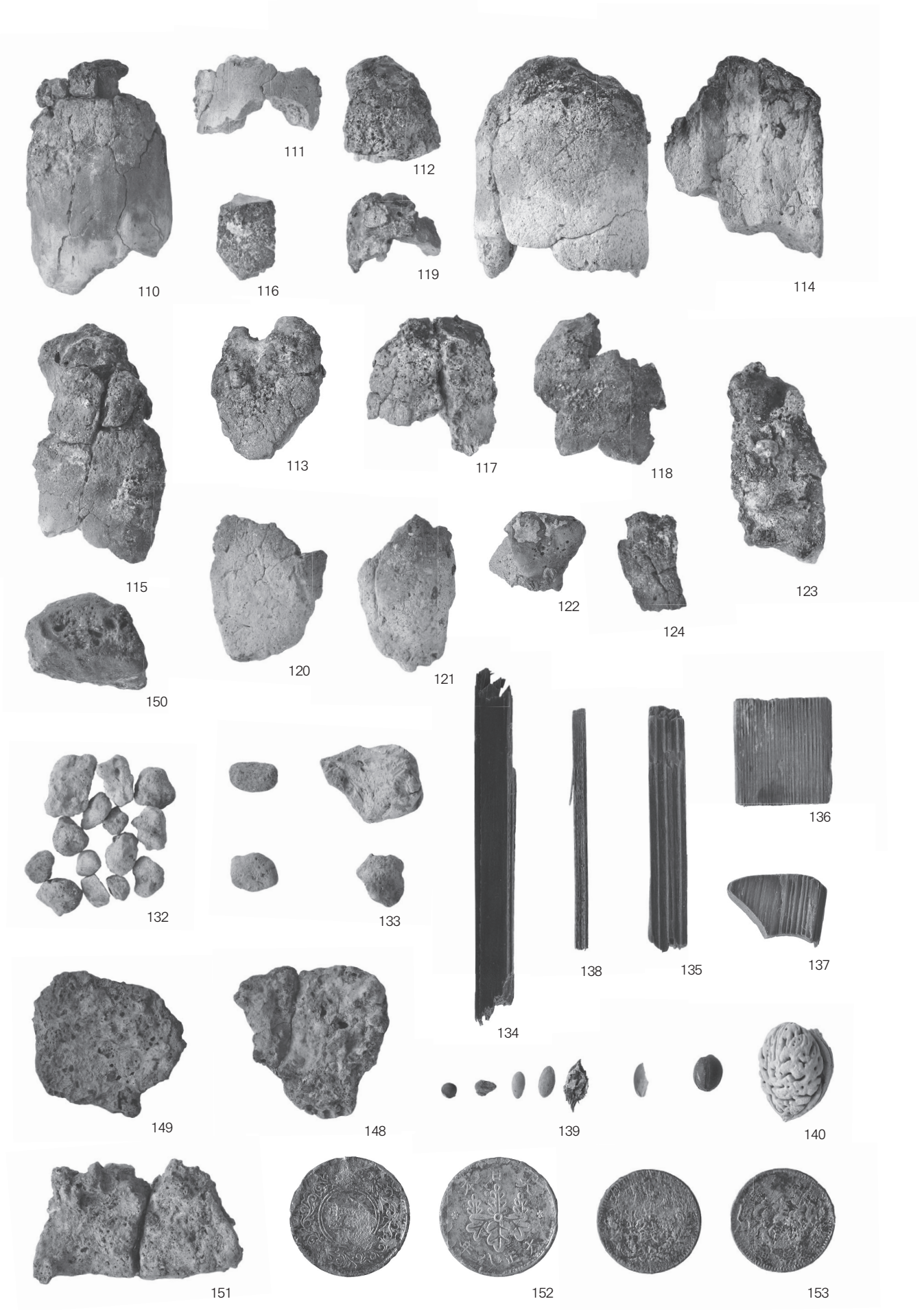
写真図版 6 溝・土坑



写真図版7 出土遺物(1)



写真図版8 出土遺物(2)



写真図版9 出土遺物(3)

報 告 書 抄 録

ふりがな	とくべつしせきむりょうこういんあとはくつちょうさほうこくしょ							
書名	特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XVI							
副書名	第40次調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県平泉町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第133集							
編著者名	島原弘征 鈴木江利子							
編集機関	平泉町教育委員会							
所在地	〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2 電話(0191)46-2111(代)							
発行年月日	西暦2020年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
むりょうこういんあと 無量光院跡	いわてけん にしいわいぐん 岩手県西磐井郡 ひらいずみちょう 平泉町 ひらいずみあざはなだて 平泉字花立地内	03402	NE76-1007	38° 59' 27"	141° 07' 16"	20180709~1026	200㎡	史跡整備を目的とした内容確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
無量光院	寺院	12世紀	土塁 整地層 石敷 築地塀 溝 柱穴	かわらけ 中国産磁器 国産陶器 瓦 羽口 土壁 木製品 鉄滓 植物遺体 銭貨				
要約	<p>無量光院跡東側土塁と土塁外側を対象とした内容確認調査である。調査の結果、無量光院造営時の整地層下から、12世紀の石敷と築地塀が確認された。</p> <p>確認された石敷と築地塀は一連のもので、無量光院跡以前にあった重要施設を囲む塀とその入口の通路と考えられ、その性格・時期変遷については次年度以降の調査で確認する予定である。</p>							

岩手県平泉町文化財調査報告書第133集

特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XVI

—第40次調査—

印刷 令和2年3月20日

発行 令和2年3月31日

編集・発行 平泉町教育委員会

〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2

電話 (0191) 46-2111 (代) FAX (0191) 46-2015

印刷 川嶋印刷株式会社

〒029-4194 岩手県西磐井郡平泉町平泉字佐野原21

電話 (0191) 46-4161